

大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（第8回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議

日時：令和7年1月10日（金）
13:00～15:00（予定）
場所：上川町役場大会議室
（オンライン併用）

次 第

1. 開会

2. 報告事項

- （1）各機関・団体からの活動状況報告等（各機関・団体）
- （2）令和6年度登山道補修技術検討会について（事務局）
- （3）大雪山グレードマップ英語版の増刷について（事務局）
- （4）令和6年度大雪山国立公園入山者数調査結果（事務局）
- （5）部会規約改定（構成員の追加）の予定について（事務局）

3. 議事

- （1）登山道等の協働型管理の進め方について（大連協）

4. その他

5. 閉会

【配付資料】

次第・出席者名簿

資料 1-1 環境省からの活動状況報告等

資料 1-2 上川総合振興局からの活動状況報告等

資料 1-3 十勝総合振興局からの活動状況報告等

資料 1-4 Asahidake Trail Keeper からの活動状況報告等

資料 1-5 旭岳 VC からの活動状況報告等

資料 1-6 上川町からの活動状況報告等

資料 2 令和 6 年度登山道補修技術検討会について

資料 3 大雪山グレードマップ英語版の増刷について

資料 4 令和 6 年度大雪山国立公園入山者数調査結果

資料 5-1 登山道等の協働型管理の進め方について

資料 5-2 登山道等の協働型管理（工程案）、登山道の管理状況

参考資料 大雪山国立公園連絡協議会表大雪地域登山道維持管理部会及び
東大雪地域登山道維持管理部会規約

令和7年1月10日

大雪山国立公園連絡協議会 登山道維持管理部会（第8回）
表大雪地域/東大雪地域合同会議 出席者名簿

【構成員】

分野	名称	出席者（敬称略）	備考
関係行政機関	上川中部森林管理署	地域統括森林官 石井 誠 首席森林官 佐藤 泉 総括森林整備官 加藤 和宏	会場
	上川南部森林管理署	森林情報管理官（管理） 米田 和敏	ウェブ
	北海道上川総合振興局	環境生活課 主査（山岳環境） 中島 浩之	会場
	富良野市	商工観光課 観光係 早川 佳尋	ウェブ
	上川町	産業経済課 課長補佐 工藤 将貴 商工観光グループ係長 畠山 直樹 商工観光グループ主事 高橋 ほのか	会場
	東川町（旭岳ビジターセンター）	所長 田渕 浩 大塚 公平	ウェブ
	美瑛町	—	欠席
	上富良野町	—	欠席
	南富良野町	—	欠席
	十勝西部森林管理署 東大雪支署	総括事務管理官 白岩 昌和 事務管理官 玉川 知弥 係員 小川 拓未	ウェブ
	北海道十勝総合振興局	環境生活課 主幹 吉澤 一利 係長 小川 明子 主事 番匠 絵美	ウェブ
	士幌町	—	欠席
	上士幌町	商工観光課 主査 須田 修	ウェブ
	鹿追町	商工観光課 観光振興係長 常清 拓也 ジオパーク推進課 大西 潤	ウェブ
	新得町	—	欠席
維持管理・ 利用・環境 教育関係団体	NPO 法人かむい	代表理事 濱田 耕二	会場
	NPO 法人大雪山自然学校	廣瀬 さつき	ウェブ
	勤労者山岳連盟（道央地区）	—	欠席
	合同会社北海道山岳整備／ 一般社団法人大雪山・山守隊	代表 岡崎 哲三 下條 典子	会場
	層雲峡ビジターセンター	—	欠席
	山樂舎 BEAR	代表 佐久間 弘 （兼層雲峡ビジターセンター インタープリター）	会場
	大雪山倶楽部	—	欠席

維持管理・ 利用・環境 教育関係団体 (続き)	大雪山国立公園パークボランティア連絡会	会長	垣内 雅人	会場
	TREE LIFE	—		欠席
	富良野山岳会	—		欠席
	北海道山岳ガイド協会 (表大雪地区)	—		欠席
	Asahidake Trail Keeper	代表	藤 このみ	ウェブ
	NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター	—		欠席
	新得山岳会	—		欠席
	十勝山岳連盟	会長	齊藤 邦明	ウェブ
自然保護関係 団体	大雪と石狩の自然を守る会	—		欠席
	山のトイレを考える会	代表 事務局長	小枝 正人 仲俣 善雄	ウェブ 資料郵送
調査・研究 関係	北海道大学大学院 地球環境科学研究院	教授 博士研究員	渡邊 悌二 王 婷	会場
	北海道大学大学院農学研究院	教授	愛甲 哲也	会場
	山岳レクリエーション管理研究会	事務局長	山口 和男	会場

【オブザーバー（出席団体のみ記載）】

分野	名称	出席者（敬称略）	備考
会場出席 10 団体／16 名 ウェブ出席 11 団体／18 名			

【事務局】

所属	出席者	備考
北海道地方環境事務所 大雪山国立公園管理事務所	所長 杉本 頼優 国立公園保護管理企画官 野口 尚史 国立公園利用企画官 高橋 広子 上席国立公園管理官 友野 雄己 国立公園管理官 森田 夕貴 自然保護官補佐 忠鉢 伸一	
東川管理官事務所	国立公園管理官 森田 由女花 自然保護官補佐 渡邊 あゆみ	
上士幌管理官事務所	国立公園管理官 永田 拳吾 自然保護官補佐 上村 哲也	

令和6年度登山道維持管理・補修工事等実施概要（環境省）

【凡例】 ○：維持管理作業 ●補修工事

○●愛山溪北鎮岳線（三十三曲分岐～沼ノ平分岐）・沼ノ平姿見の池線（沼ノ平分岐～当麻乗越）

- ・段差処理、導流工補修、木柵再設置（三十三曲～沼ノ平分岐） ※別紙1
- ・木道敷設及び再設置 50 基（沼ノ平分岐付近～六ノ沼） ※別紙2・3
- ・点検、定点モニタリング、ササ刈払い

●松仙園線（歩道）

- ・土留工 L=5m、木道設置 L=45m ※別紙4
- ・ゲート解錠・施錠前点検

○ヤンベタツ五色岳線（沼ノ原分岐～沼ノ原大沼）

- ・点検、定点モニタリング、ササ刈払い

○●層雲峡勇駒別線（中岳分岐～間宮岳）

- ・土留め工 17 箇所、導流工 7 箇所
- ・点検、定点モニタリング

○●中岳裾合平線（別紙5）

- ・カゴ導流工 14 基、カゴ床止工 88 基、マキセル工 19 基、植生基盤工 52 基、ヤシ製土嚢工 109 基、補修工 1 m³
- ・段差処理、点検、定点モニタリング

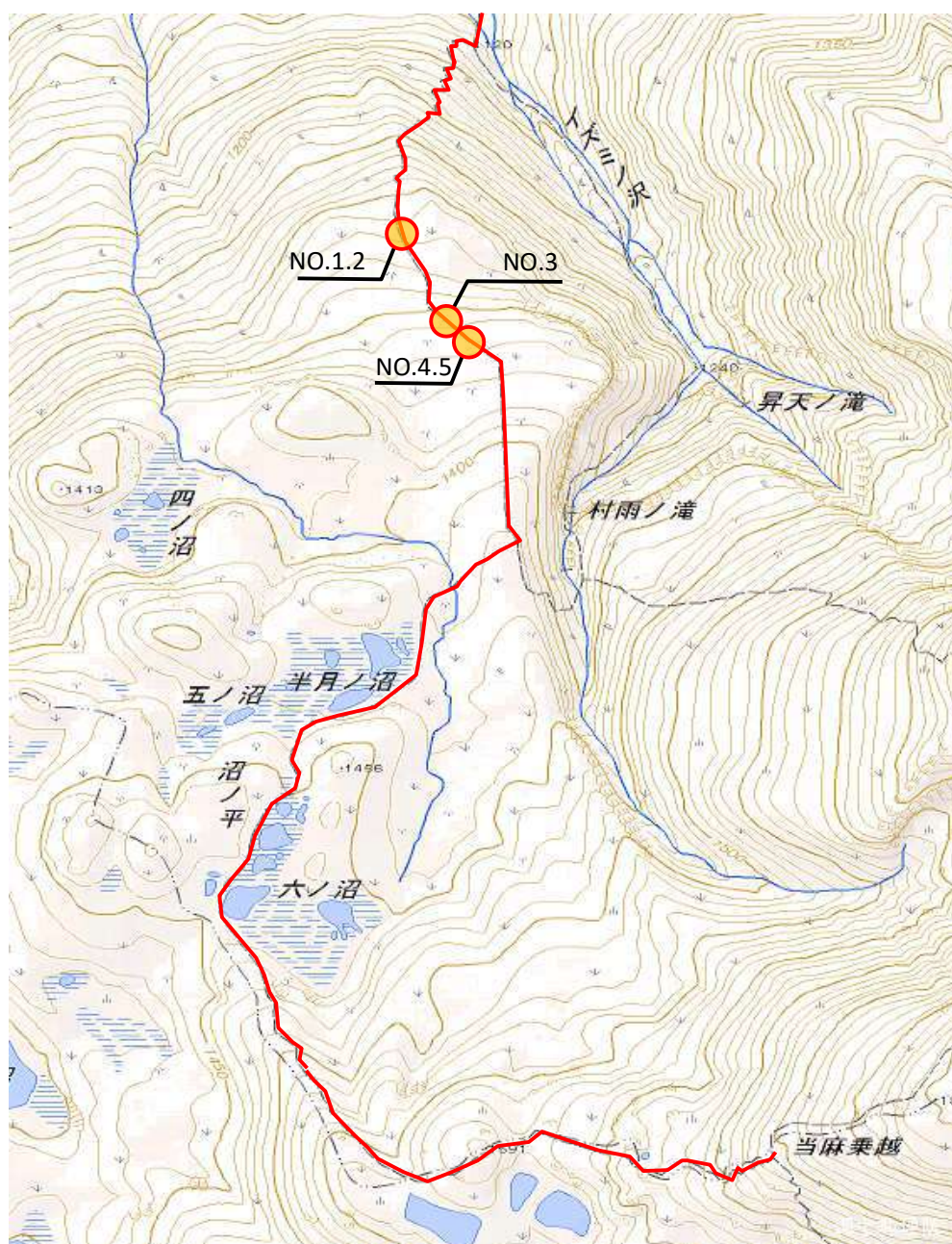
○沼ノ平姿見の池線（沼ノ平分岐～当麻乗越）

- ・木道修繕、点検、定点モニタリング

○●トムラウシ山線

- ・木道敷設及び再設置 81 基（カムイ天上区間）（別紙6）
- ・点検、モニタリング、ササ刈払い、倒木処理等

点検位置図 <沼ノ平コース>	点検日 9月 16日	点検者 岡崎哲三
----------------	------------	----------



点検概要
作業内容
・段差処理、路面保護 ・導流工に詰まった石材及び堆積物の除去 ・過去施工箇所の補修（歩行路設置の木柵再設置と石材の充填）
利用者状況・その他
・紅葉シーズンで登山者が多いことおよび昨日の降雨により、ぬかるみがひどくなっている状態。

No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
1	N 43° E 142°	状況と対応	流水と踏圧の影響で土が削られ続けていた場所。段差も高くなっている為、土を削りながら歩いた足跡が常に見られた。歩行に支障がないよう段差を解消するとともに、土壌を保護する為の施工を行なった。資材は周辺の石材と木材を使用。		
	対応 ☒				



No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
2	N 43° E 142°	状況と対応	落下水による洗堀が進み、年々段差が高くなっていた場所。段差が高い為、大石をよじ登る形での歩行が必要だった。石材と木材により段差処理を行ない、段差が解消されて問題なく歩行できるようになったとともに、落下水による洗堀を防止。		
	対応 ☒				



No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
3	N 43° E 142°	状況と対応	導流工に石が挟まり、水が流れずに木っ端が堆積している状態となっていた。 石を除去して導流工に溜まった堆積物も除去。		
	対応 ☒				



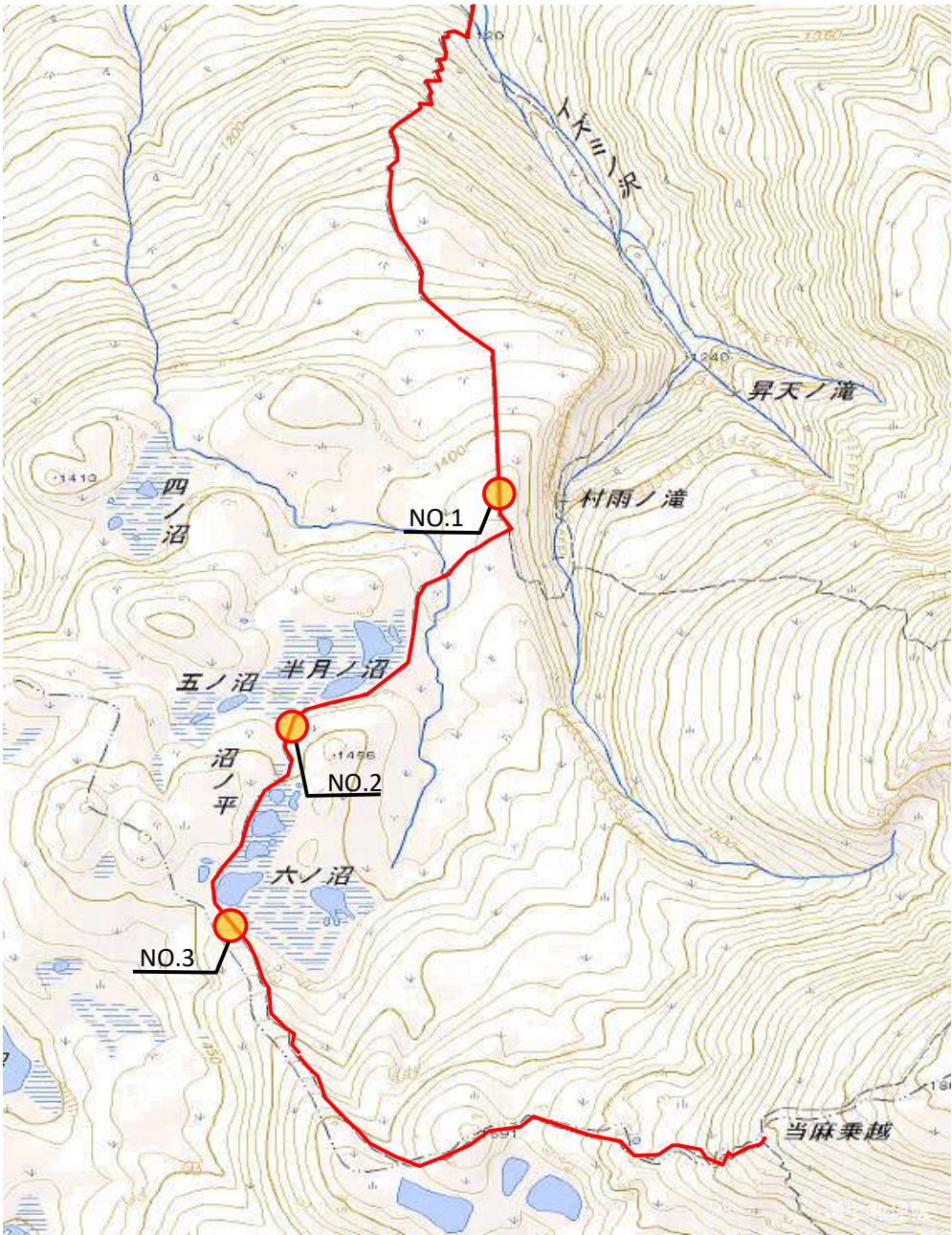
No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
4	N 43°	状況と対応	この場所も流水と踏圧の影響で侵食が進んでいた場所。ぬかるんだ土壌が踏圧により削られ流され続けていた。木材を使用して階段を設置するとともに、大石を移動して歩行面とし、段差の解消と路面保護のための施工を行なった。		
	E 142°				
	対応 ☒				



No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
5	N 43°	状況と対応	2017年に施工を行なった場所において、歩行路設置の為の木柵が外れており、歩行面の石材が流されて土壌が踏まれている状態となっていた。木柵の再設置を行ない、歩行路への石材の再充填を行なった。		
	E 142°				
	対応 ☒				



点検位置図 <愛山溪コース>	点検日 9月 14・15日	点検者 下條典子
----------------	---------------	----------



点検概要
作業内容
木道設置。区間内に合計24基の木道を設置した。
利用者状況・その他
紅葉シーズンで登山者が多い時期の為、踏圧によるぬかるみがひどくなっている状態。

No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
1	N 43° E 142°	状況と対応 ・水が溜まりやすく、踏圧により常に泥濘状態となっている場所。踏圧から土壌を守るため、木道設置を行なった。 ・木道7基を設置			
	対応 ☒				



No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
2	N 43° E 142°	状況と対応	・ところどころ設置された木道は老朽化しており、木道を避けて土壌を削って歩くことによる侵食が見られる。また、流水による洗掘等で段差が高くなった場所では段差を避けて歩くことによる裸地化が見られる。土壌を守るために、段差処理を兼ねた木道の設置を行なう。 ・木道7基の設置と1基の再設置		
	対応 ☒				



No.	位置	点検の観点			
		1.安全性	2.構造物	3.景観保全	4.登山道の状況
3	N 43°	状況と対応	・ところどころ木道が設置されているが、木道が飛び飛びで設置されており、木道が無い場所では泥濘状態となっている。結局泥濘箇所を避けて法面や植物帯の上を歩くことで土を削ってしまう為、木道の追加設置を行なう。 ・木道10基の設置		
	E 142°				
	対応 ☒				



1 業務内容

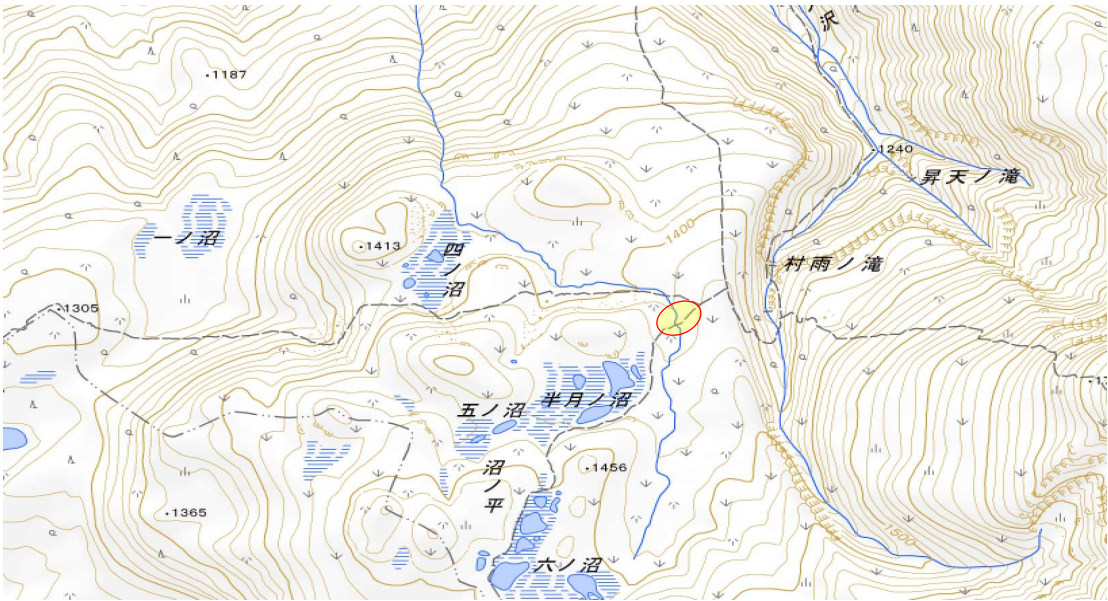
沼ノ平分岐～当麻乗越間における小規模木道設置

施工量：約120m区間において新規木道敷設40m、既存木道再設置30m

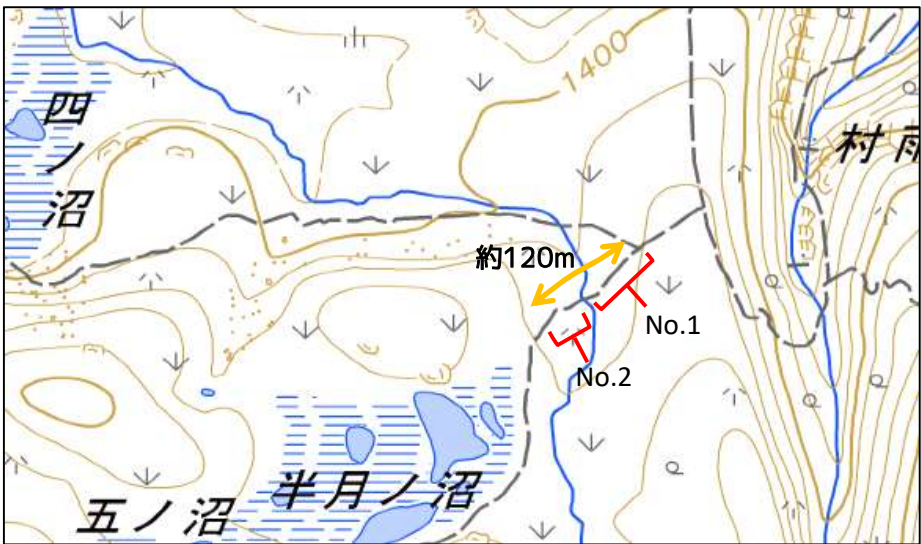
施工日：2024年9月14日15日

前年度にスノーモービルによって運搬された木材約45本を使用し、木道19基の新規設置と7基の再設置を行った。約120mの区間で、腐食した木道の撤去と新規木道の設置を行なった。

施工箇所



施工位置図



施工箇所	施工内容	追加木道基数	施工区間距離
No.1	木道追加	14基	約90m
	既存木道再設置	7基	
No.2	木道追加	5基	約10m
新規設置基数:19基 及び 既存木道再設置基数:7基			

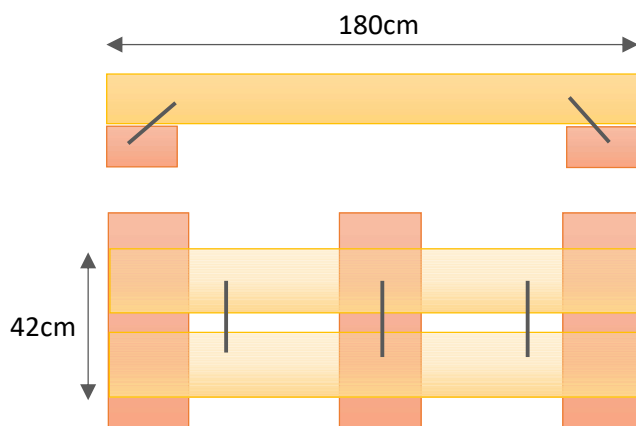
2 施工内容

資材留置地点である八島分岐から渡渉地点を過ぎた地点までの区間において、腐食した木道を撤去し、新規木道を設置した。

腐食した木道は危険であると同時に、木道を避けて周りの植物帯への踏み込みも見られる状態であったが、新規木道の設置により周辺植生への踏圧による影響は減るものと思われる。

＜小規模木道＞

- ・長さ180cm・幅42cm
- ・枕木は前後に2本もしくは3本(60cm)
- ・カスガイで固定



＜木道部での段差処理＞

- ・歩行面ができるだけ平坦になるよう、凸凹のある場所では木材の向きを変えるなどして木道設置した。
- ・斜度のある場所では、木材をそのまま並べると木道自体に傾斜がついて歩行時に滑りやすくなるため、段差があっても木道自体は平らになるように設置した。
- ・岩盤がある場所への設置時は長さをカットするなど、地形に合わせた形で設置した。



登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	設置木道基数	施工区間距離
施工前後	No.1	木道追加と再設置	21基	約90m



登山道補修整備記録	施工箇所	施工内容	設置木道基数	施工区間距離
施工前後	No.2	木道追加	5基	約10m



路線名		松仙園線道路（歩道）		担当者		濱田 耕二	
路線番号		8		作業日		2024年9月24日	
区間				記録日		2024年10月18日	
				記録者		濱田 耕二	
登山道管理水準							
保全対策ランク		－		大雪山グレード		4	

目的
木道の設置
改修予定箇所①
昨年施工した木道の根元の補強にヤシ土嚢にてプール工 5 m

浸食原因	荒廃タイプ	工法分類	使用材料
流水等 ☐ 大雨 ☐ 雪解け水 ☒ 雨水（雨滴） 凍結融解現象等 ☐ 凍結融解（霜柱） ☐ 雪圧 ☐ 強風 登山者の踏圧等 ☐ 登山者 ☐ 既存施設の影響 ☐ その他 （ ）	☐ ぬかるみ化 ☐ 水路化 ☐ ガリー化 ☐ 拡幅、複線化 ☐ 木道等 ☐ トラバース箇所 ☐ ヤブ化、倒木 ☐ 根系裸出 ☒ その他 （ ）	☐ 分散排水工法 ☐ 床止め工法 ☒ 土留め工法 ☐ マルチング工法 ☐ 路面処理工法 ☐ 段差処理工法 ☐ 植生基盤工法 ☐ 倒木処理 ☐ 刈り払い ☐ その他 （ ）	ヤシ土嚢10袋

位置図



概要写真

< 補修前 >



< 補修後 >



GPS位置

始点	43° 42'33. 24"	142° 47'59, 49"
終点	N 43° ' 00.00"	E 00° 00' 00.00"

大雪山国立公園 登山道補修記録

路線名		松仙園線道路（歩道）		担当者		濱田 耕二	
路線番号		8		作業日		2024年8月11日	
区間				記録日		2024年10月18日	
				記録者		濱田 耕二	
登山道管理水準							
保全対策ランク		－		大雪山グレード		4	

目的
木道の設置
改修予定箇所②
ぬかるみの為 角材で木道設置45m設置

浸食原因	荒廃タイプ	工法分類	使用材料
流水等 ☐ 大雨 ☐ 雪解け水 ☐ 雨水（雨滴） 凍結融解現象等 ☐ 凍結融解（霜柱） ☐ 雪圧 ☐ 強風 登山者の踏圧等 ☒ 登山者 ☐ 既存施設の影響 ☐ その他 ()	☒ ぬかるみ化 ☐ 水路化 ☐ ガリー化 ☐ 拡幅、複線化 ☐ 木道等 ☐ トラバース箇所 ☐ ヤブ化、倒木 ☐ 根系裸出 ☐ その他 ()	☐ 分散排水工法 ☐ 床止め工法 ☐ 土留め工法 ☐ マルチング工法 ☒ 路面処理工法 ☐ 段差処理工法 ☐ 植生基盤工法 ☐ 倒木処理 ☐ 刈り払い ☐ その他 ()	木材 六角ボルト コーキング

位置図	概要写真
	<補修前>  <補修後> 
GPS位置	
始点	N43° 42'07. 59" E142° 49'18. 55"
終点	N 43° 42' 06.58" E 142° 49'21.86"

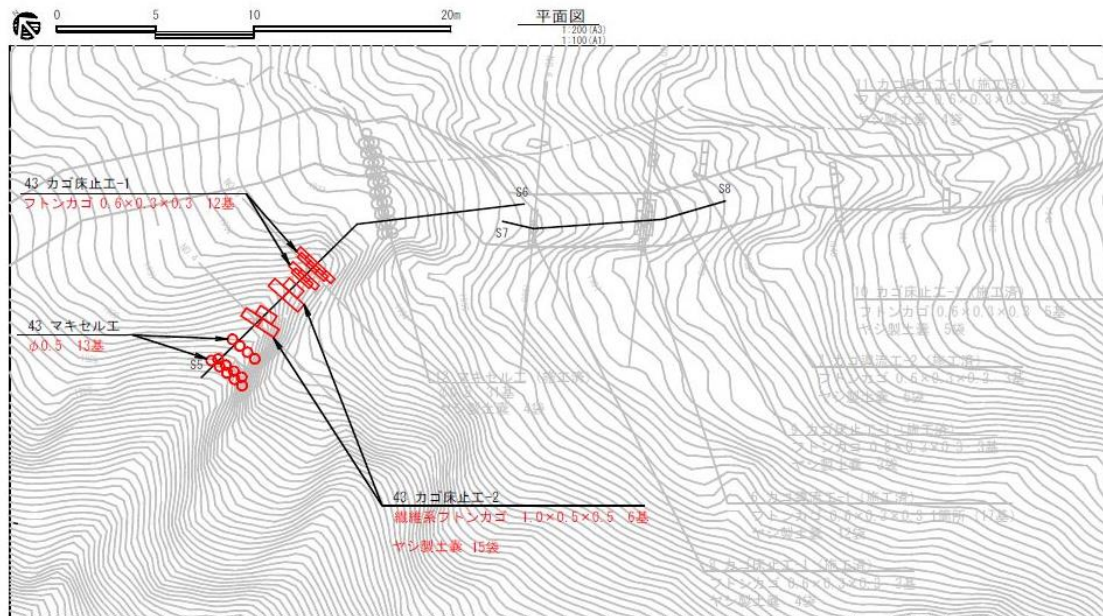


令和6年度工事

- ・カゴ導流工 14基
- ・カゴ床止工 88基
- ・マキセル工 19基
- ・植生基盤工 52基
- ・ヤシ製土嚢工 109基
- ・補修工 1 m³

イトイ産業
北海道山岳整備

一般図（2）

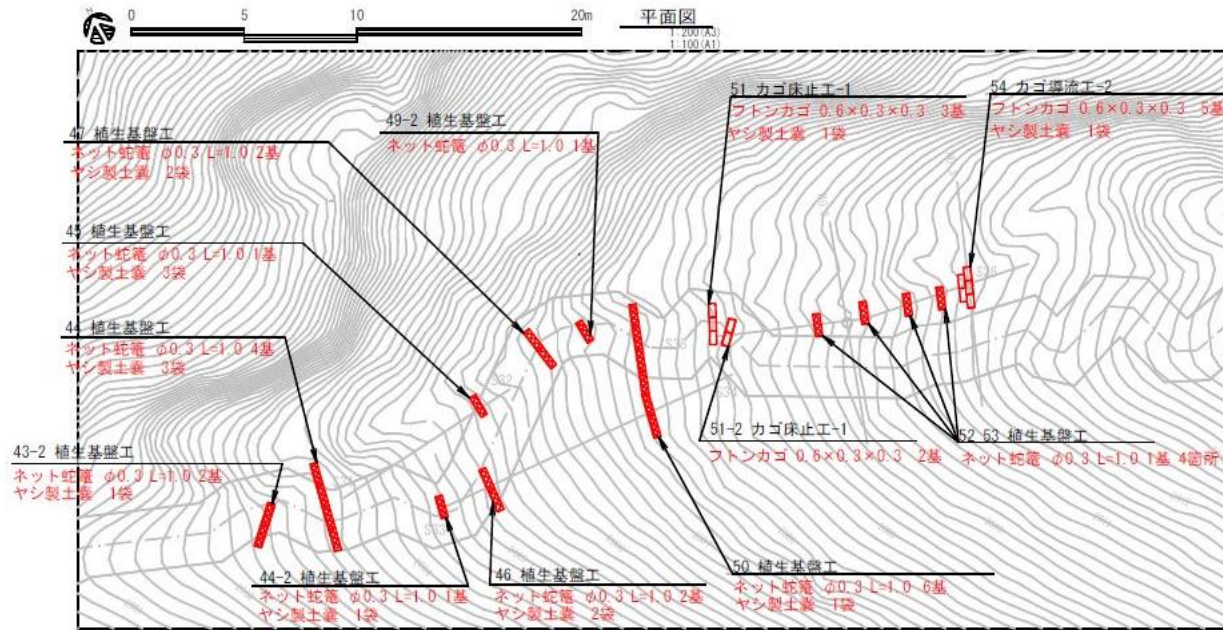


43 マキセル工 施工前



43 マキセル工 施工後

一般図（9）

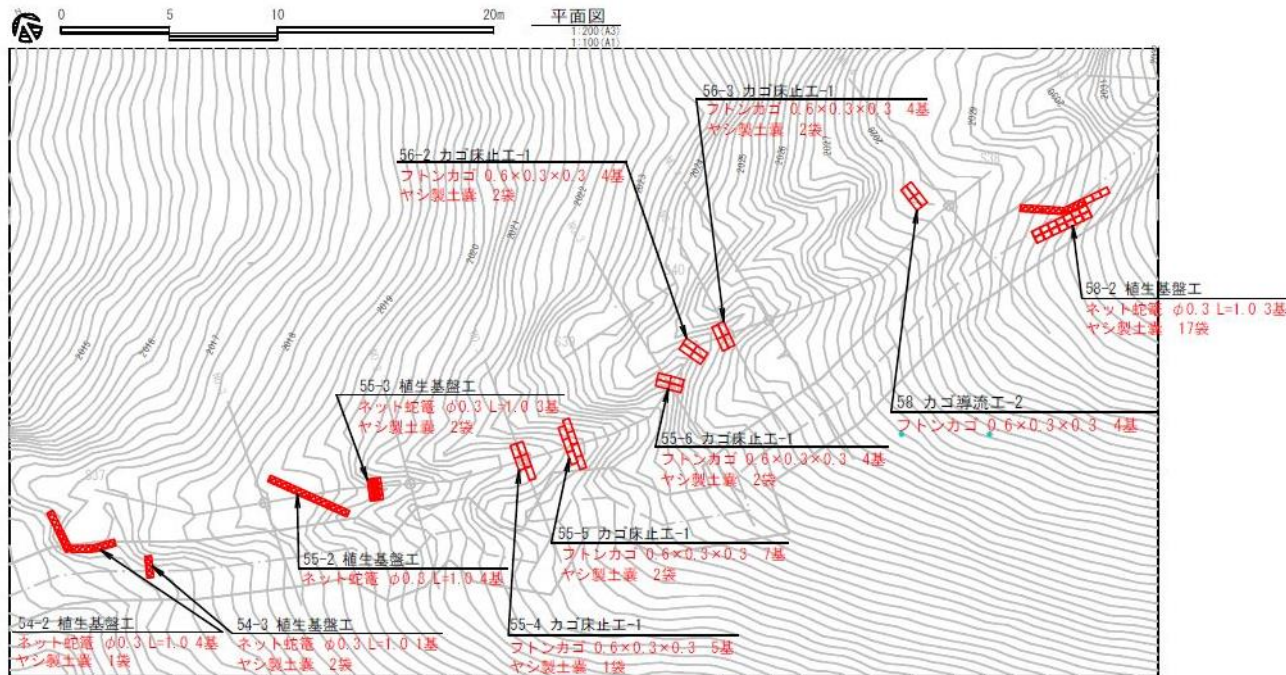


51-2 カゴ床止工 施工前



51-2 カゴ床止工 施工後

一般図（10）

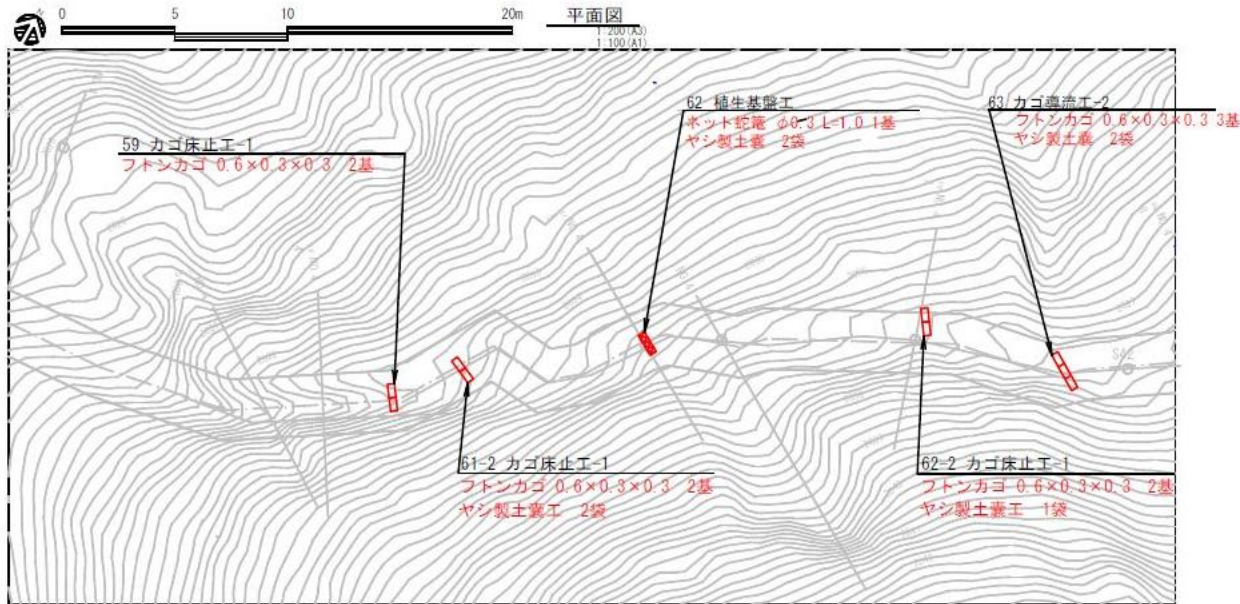


55-2 植生基盤工 施工前



55-2 植生基盤工 施工後

一般図（11）

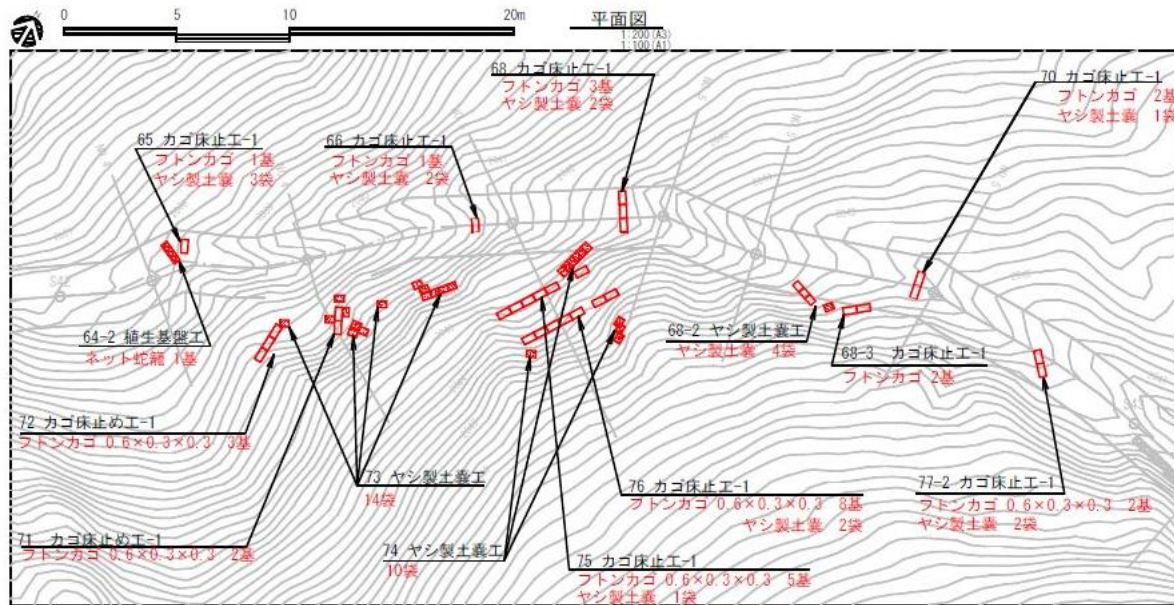


63 カゴ導流工 施工前



63 カゴ導流工 施工後

一般図（12）



68-3 カゴ床止工 施工前

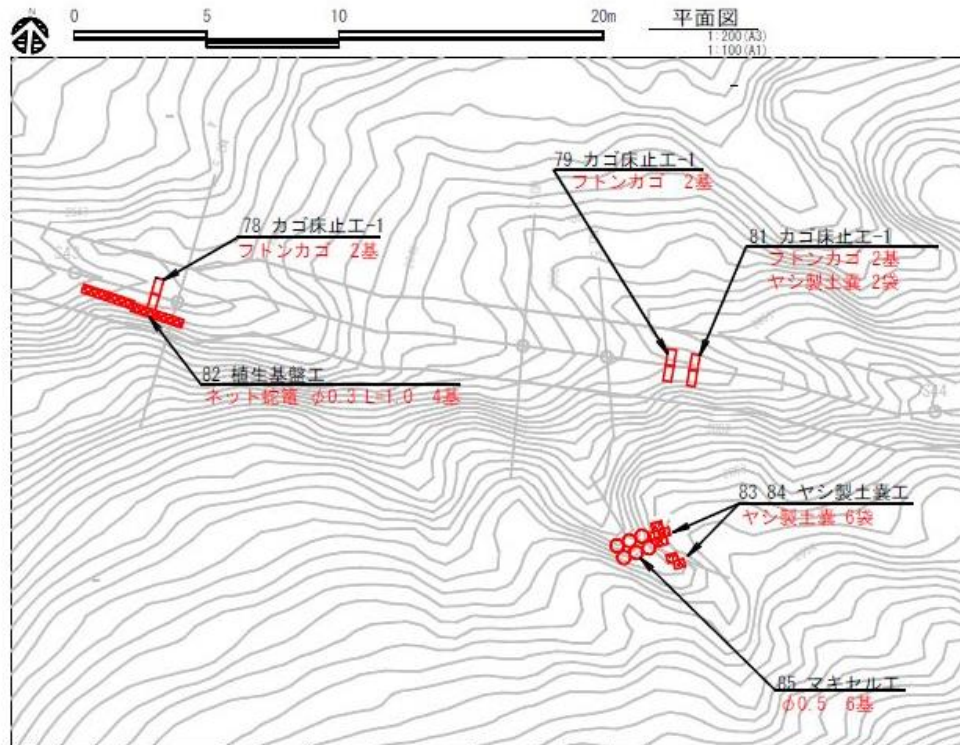


75 カゴ床止工 施工後



68-3 カゴ床止工 施工後

一般図（13）

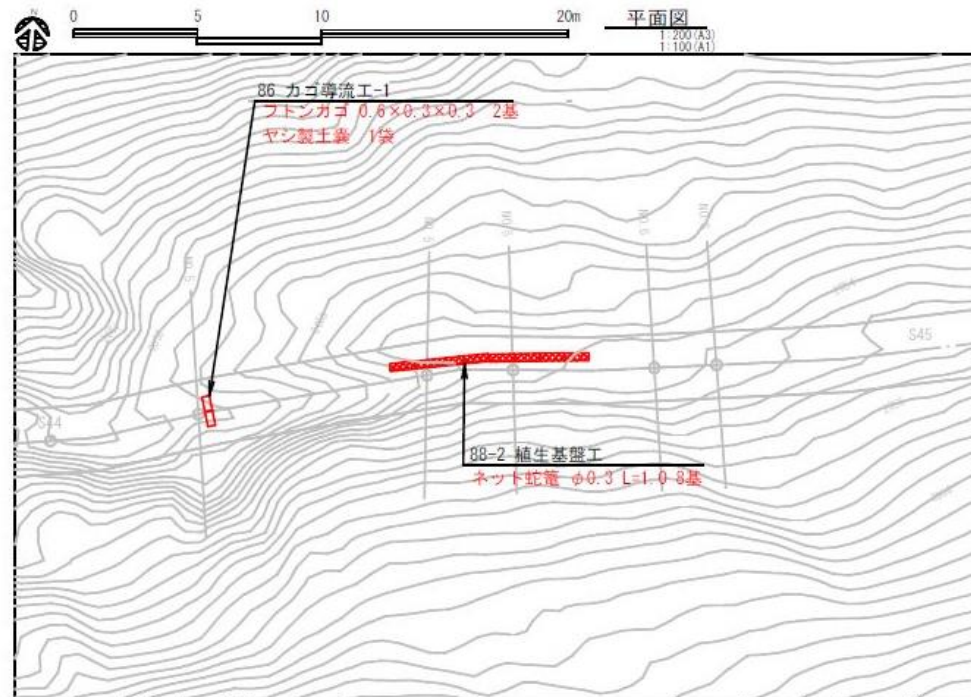


82 植生基盤工 施工前



82 植生基盤工 施工後

一般図（14）



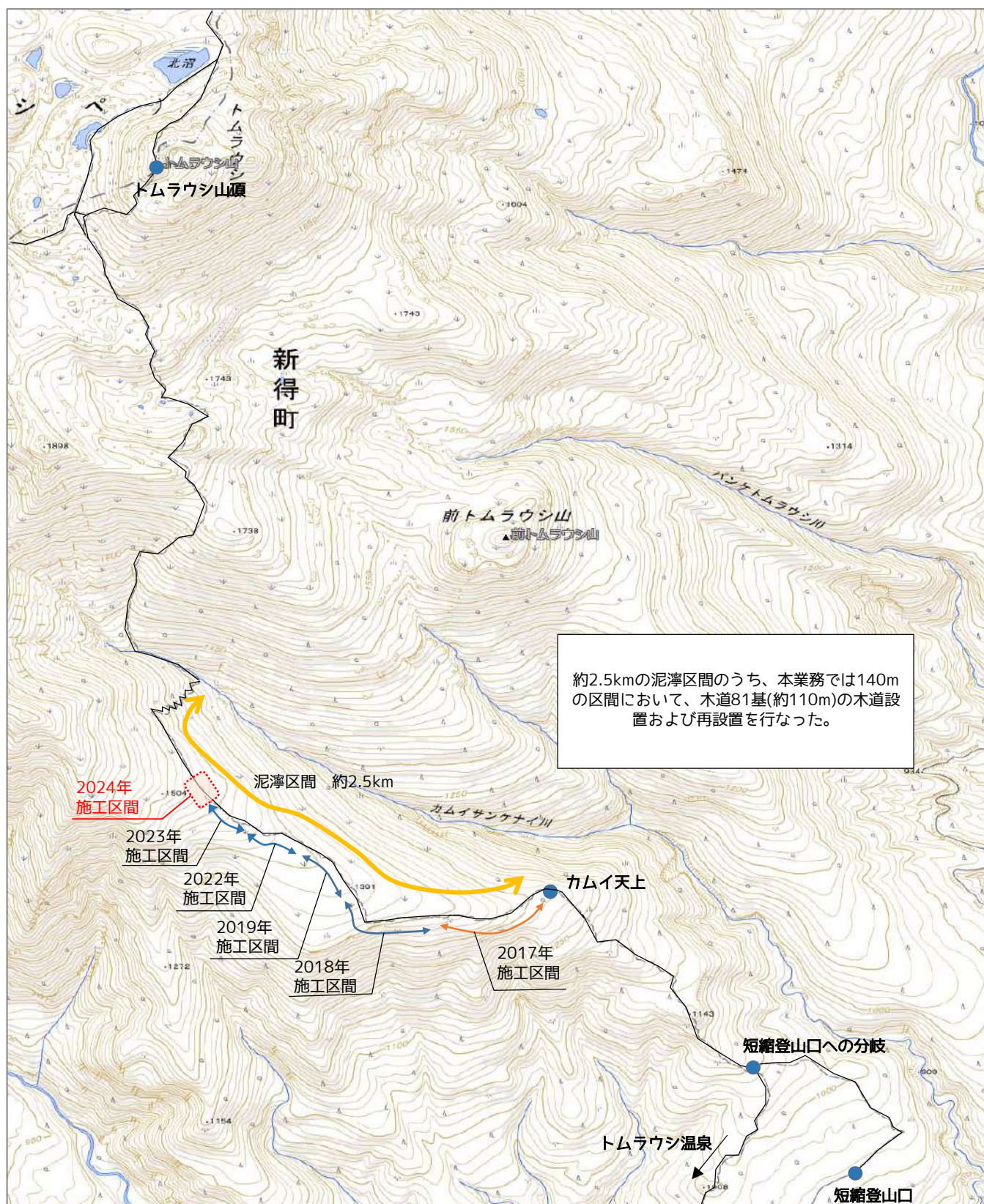
82-2 植生基盤工 施工前



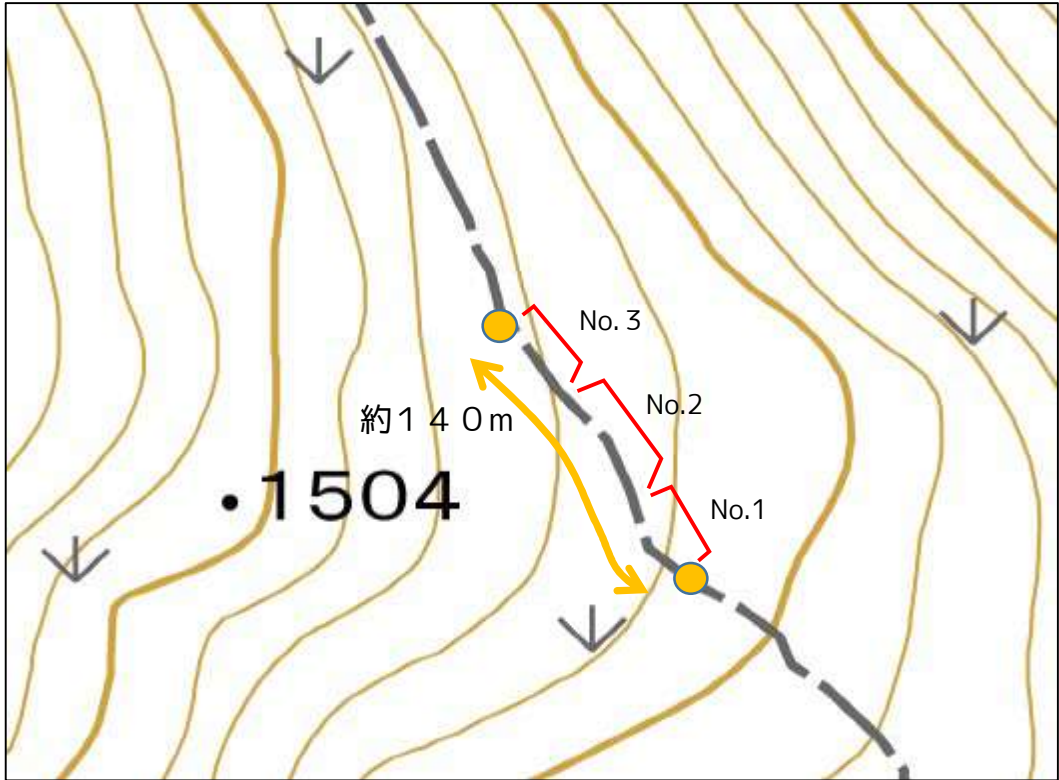
82-2 植生基盤工 施工後

トムラウシ山登山道補修工事

トムラウシ山登山道 補修区間



施工位置図



施工箇所	施工内容	追加木道基数	施工距離
No. 1	木道追加	21基	約30m
No.2	木道追加	39基	約55m
	既存木道再設置	3基	
No.3	木道追加	16基	約25m
	既存木道再設置	2基	
新規設置基数：76基　及び　既存木道再設置基数：5基 計約110m			

施工期間：2024年9月6日～9月8日

泥濘化による踏圧侵食、それに伴う土壌流出などが著しいカムイ天上上部登山道において、侵食防止の施工を行なう。

現状木道の無い区間では、踏圧で土壌がぬかるみ、ぬかるみを嫌う登山者が登山道脇の法面を歩行してしまい、土壌を削り、削れた土壌がぬかるみを作り出す悪循環が起きている。

また、踏圧だけでなく流水や凍結融解現象の影響も大きく、侵食が拡大し土壌が無くなり岩盤が見えてきている場所もある。岩盤が見えるほど土壌がなくなってしまうと、植物の育ちにくい環境になり、生態系の復元は難しい状況となる。現状で残っている土壌を守りこれ以上の踏圧侵食を防ぐために、以下の施工を行なった。

①泥濘区間に新規小規模木道の設置



登山者の踏圧により笹の根が無くなり土壌を抑えるものが無くなると、侵食に弱い状態となる。放置した場合、数年も経たずに深いガリー侵食となり、さらに土壌が流出して岩盤が出てくる可能性があるため、木道を設置する。

②現状の飛び飛びになっている木道区間に、連続した木道になるよう小規模木道の追加



木道があっても飛び飛びに設置されている場合は、登山者は段差を嫌い木道を使用しないことが多い。結局木道を避けて法面上をそのまま歩くことで土壌を削る踏圧侵食を発生させており、侵食防止になっていない。このような場所に小規模木道を追加し、木道を連続した状態にして、踏圧による土壌侵食を抑える。

③段差処理



段さが高いことで段差を避けて法面を歩いてしまったり、歩きながら土壌を削ってしまうような場所は、段差の高さが解消されるように木道を設置。

施工箇所の選定について

2023年までの施工で行なった木道設置個所の延長として木道追加施工を行なった。
施工延長としては約140mの区間。小規模木道(120cm×60cm・120cm×120cm)合わせて76基の追加と5基の既存木道の再設置を行なった。施工箇所は、木道設置作業初日（9月7日）に、現地において環境省担当官と協議・確認の上、決定した。

別添2

作成：2024年12月25日

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業日時	2025/7/25 11:00～12:00		天候: 晴れ
参加者	合計 2 人		
施工内容	崩落した土石が登山道の一部を覆った箇所 の補修		
実施結果:			
概要 2024.7 雨等の影響で、北海岳クジャク岩付近から岩石等が流出し登山道の一部をふさいだ。幸いけが人等はおらず、層雲峡VCやりんゆう観光櫓の協力を得て注意喚起がなされた。また登山道の修復については一般社団法人大雪山・山守隊が行った。なお、8月に入ってから、上川中部森林管理署の協力のもと注意喚起の標識を設置した。 整備内容 ①登山道上に散乱した落石を組みなおし、平滑な路床となるよう施工した。 ②斜面上の浮石が落下する恐れがあったため、斜面に残存する浮石を下部に落とし、グラつく石の点検などを行った。 施工の考え方 ・本来であれば申請後の施工が望ましいが、斜面上部を目視点検したところ浮石落下の危険があった。該当区間は通行止めにはなっていなかったため緊急対応として施工し、事後報告を行った。			



※ 施工状況は別添のとおり

状況写真		大雪山国立公園層雲峡勇駒別歩道	
所 属	北海道上川総合振興局	撮 影 日	
場 所	北海岳クジャクイワ付近		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

状況写真		大雪山国立公園層雲峡勇駒別歩道	
所 属	北海道上川総合振興局	撮 影 日	
場 所	北海岳クジャクイワ付近		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

崩落箇所全景	注意看板設置
	

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業日時	2024年8月24日、8月28日		天候: 曇り
参加者	合計 27名 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	現場の倒木や土石を利用した階段工		

概 要
笹等で覆われていた法面を伐採して整備した登山道が、笹の枯死等により歩道自体が滑ってしまい登降が困難であった箇所(法面が急峻なため)

整備内容
・ 8月24日
急斜面に付いた踏み分け道の侵食が激しく、ガリー化が進行していた。植生や生態系への影響を考慮し、歩行も困難なため木柵階段を設置した。
・ 8月28日
既存の木柵階段が崩れ、踏圧等による路床のガリー化や土壌流出が起きていたため、木柵階段を設置した。
施工日と参加人数
・ 8月24日 施工者5名
・ 8月28日 施工者22名
施工内容(4ヶ所)
・ 8月24日 (2か所) 木柵階段25段、木柵階段12段
・ 8月28日 (2か所) 木柵階段工22段



※ 施工状況は別添のとおり

記録担当者	上記担当者と同じ
-------	----------

状況写真		大雪山国立公園中岳裾合平線歩道	
所 属	北海道上川総合振興局	撮 影 日	2024.8
場 所	クチャンベツ五色岳線登山口～最初の渡渉地点手前		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

状況写真		大雪山国立公園クチャンベツ五色岳線歩道	
所 属	北海道上川総合振興局	撮 影 日	2024.8
場 所	クチャンベツ五色岳線登山口～最初の渡渉手前		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

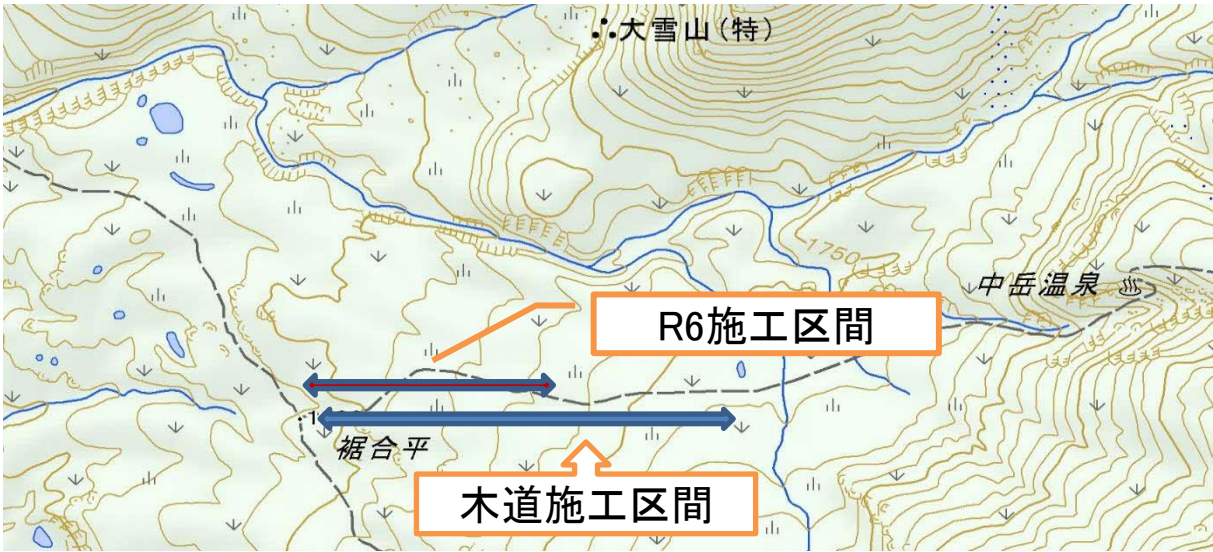
No.1

計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業日時	年 月 日() : ~ :		天候:
参加者	合計 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	危険な木道を撤去し、木材やグレーチングを使用し路面保護を行った(旭岳裾合平)		

令和6年度 登山道保全技術セミナー実施

概要
行政だけでは適切な維持管理ができず、山岳関係者やボランティアによる協働管理が求められているなか、振興局ではCFを活用し資材確保を行うとともに登山道保全技術セミナーを一般社団法人大雪山・山守隊に委託。登山道荒廃のメカニズムの理解の上適切な補修技術整備に従事できる人材育成を目指す。

整備内容
路面保護等を実施
施工日と参加人数
8/17,18,24,25 43名(一般参加者26名、関係者2名、山守隊スタッフ15名)
9/ 1 35名(一般参加者27名、関係者2名、山守隊スタッフ6名)
施工内容(約225m)
グレーチング167基、木道30基



木道設置区間 L≒600m
R4 110m
R5 150m
R6 225m

※ 施工状況は別添のとおり

記録担当者	上記担当者と同じ
-------	----------

状況写真		大雪山国立公園中岳裾合平線歩道	
所 属	北海道上川総合振興局	撮 影 日	2024.8～9
場 所	裾合平分岐～中岳分岐		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	北海道上川総合振興局		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hirovuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業日時	令和6年8月11日(日) 9:00 ~ 16:00(移動時間含まない) 天候:晴		
参加者	合計 9 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	赤岳第4雪渓手前の木道の再整備(2年目)		

実施結果:

○8月11日 登山道補修技術検討会構成員(合同会社北海道山岳整備)による補修作業

実施者 合同会社北海道山岳整備(白雲整備人、ヒグマ情報センタースタッフ含む。)、行政職員

施工の考え方

- ① 昨年補修した木道の下の一部は水みちとなっていたので、現場下流の堆積した土砂を利用して新たに歩行面に土嚢を設置。(踏板として使用した木道は撤去)
- ② 一部法面が崩れが進行していた箇所は、土嚢及び木材を使用し嵩上げを実施し植物の定着を図った。
- ③ 木材と土嚢等の空隙は現場下流側の堆積している土砂を利用した。
- ④ 上部区間については、路面の一部に導流工及び路床に土石を配置した。

施工前

施工後



記録担当者

施工前



施工後



記録担当者

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp
			電話番号 0166-46-5924
作業日時	2024年8月11日(日) 10:30 ~ 15:00		天候: 晴
参加者	合計 27 人		
施工内容	土留め(大雪山国立公園層雲峡勇駒別歩道 赤石川付近)		

実施結果:

令和6年度 登山道保全技術セミナー実施

概要

行政だけでは適切な維持管理ができず、山岳関係者やボランティアによる協働管理が求められているなか、振興局ではCFを活用し資材確保を行うとともに登山道保全技術セミナーを一般社団法人大雪山・山守隊に委託し、登山道荒廃のメカニズムの理解の上適切な補修技術整備に従事できる人材育成を目指す。

整備内容

土留め

施工日と参加人数

8/11 27名(一般参加者18名、関係者1名、山守隊スタッフ8名)

施工経緯

黒岳石室から赤石川への歩道は長年かけて浸食が進み、深いガリーがみられる。2018年に浸食を防ぐ土留めを行っており部分的に路床の安定がみられるものの、それ以外は浸食が続き、登山道脇の植物群は常に崩れ落ちている状況。

施工の考え方

崩れて流され下流に溜まった土砂を元あった場所に戻し、今後起こりうる新たな浸食を防ぎ、植物が再生できる土壌環境を作る。

今回は、①法面の崩れ防止、②路床低下防止の達成のため、ヤシ土嚢及びテンサーを利用した土留め施工を行った。



※ 施工状況は別添のとおり

記録担当者	上記担当者と同じ		
-------	----------	--	--

状況写真		大雪山国立公園層雲峡勇駒別歩道	
所 属	北海道上川総合振興局	撮 影 日	2024.8.11
場 所	黒岳石室から赤石川へ至る登山道		
写真提供	一般社団法人大雪山・山守隊		

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

施工前	施工後
	

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	北海道上川総合振興局(環境生活課)		
担当者	氏名	中島浩之	電子メール nakajima.hiroyuki2@pref.hokkaido.lg.jp 電話番号 0166-46-5924
作業日時	年 月 日() : ~ :		天候:
参加者	合計 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	誘導標識の改善(滝の上分岐、安足間分岐、北鎮分岐、旭岳ニセ金庫岩、美瑛富士分岐、美瑛富士避難小屋分岐)		
実施結果:			
令和6年度 大雪山誘導標識改善事業			
目的 大雪山国立公園は、国内外から多くの登山者が訪れる人気の観光地であり、アドベンチャートラベルのフィールドとしても注目を浴びる中、コロナ禍収束後は外国人登山者が再び増加することが予想される一方で、登山道の分岐点等で目的地までの方向や距離を示す誘導標識については、殆どが英語表記もされておらず、登山者の遭難防止の観点から緊急的な対応が求められている状況である。 そのため、大雪山のうち特に登山者の多い表大雪地域を中心として、先行的・試行的に既設標識の表示面を改修し、登山環境の改善を図る。			
整備内容 過去に北海道が整備した誘導標識の盤面を、英語表記、位置図、距離、時間を掲載したものに更新(盤面の製作のため、内容変更や交換がスムーズに行える)			
委託先 合同会社北海道山岳整備			
施工に当たって R3から表大雪地域や十勝連峰を中心として交換し、R6実施分でほぼ更新は終了。今年度については、従来の盤面交換だけではなく、数年前に落雷により標柱が折れていた北鎮分岐に同様の分岐標識を設置、また過去に何度も道迷い遭難が起きていた旭岳9合目のニセ金庫岩付近にも既設金属ポールに案内板を設置した。 - 表示板面はアルミ複合版印刷 - 積雪の多さを考慮して一部は「巻き込み加工」を使用 - ネジ類はステンレス製 - 表記文字は日本語英語ともに、「ロゴたいぷゴシック7」数字は「Century Gothic」使用 - 表記時間は旺文社地図を参考として、誤差修正の数値			
参考 今後はこまめな点検と補修が必要。また当振興局の管轄以外の山域の分岐標識の盤面交換は必要。			
※ 施工状況は別添のとおり			
記録担当者	上記担当者と同じ		

状況写真		大雪山誘導標識改善事業	
所 属	北海道上川総合振興局	撮 影 日	
場 所	大雪山国立公園(上川総合振興局管理路線)		
写真提供	合同会社北海道山岳整備		

施工前(安足間分岐)	施工後
	

施工前(北鎮分岐)	施工後
	

施工前(ニセ金庫岩)	施工後
	

状況写真		大雪山誘導標識改善事業	
今後の対応	当案内板及び通年を通したロープ設置管理(冬季間も)	撮 影 日	
場 所	大雪山国立公園(上川総合振興局管理路線)		
写真提供	合同会社北海道山岳整備		



別添2

歩道維持管理作業 実施報告書 作成:令和6年12月20日

NO. 1

計画者	北海道十勝総合振興局環境生活課		
担当者	氏名	吉澤 一利	電子メール yoshizawa.kazutoshi@pref.hokkaido.jp
			電話番号 0155-66-8622
作業日時	令和6年7月22日(月)～令和6年10月11日(金)		天候:
参加者	合計 7 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	既設木道の撤去、グレーチングの設置		

実施結果:

改修前



改修後



記録担当者

吉澤 一利

ヤンベタツプ五色岳線は木道の荒廃が進んでおり、踏み板の腐食等で破損箇所にはボルトがむき出しになったりと危険な場所が広範囲において点在しています。今年度施工延長は795m程度と、令和4年度に続き一部ではありますが、危険箇所の解消に向けた改修を行いました。

この事業は環境省の交付金を活用し、令和5年度(繰越)の公共工事として発注しております。

作業は7月22日から10月12日までに行われ、資材運搬はヘリを使用し、荷揚げ、荷下ろしを行っています。

グレーチングの施工にあたり、現場の地形に合わせたり、現地の石をうまく活用してグレーチングの勾配についても利用者に配慮した施工を行っていただきました。

老朽化した木道を撤去した箇所においては、関係者間で調整の上グレーチングを設置しています。グレーチングにすることで、登山道の下にも太陽光が当たり植生が発生することが期待できます。また、グレーチングの施工を行わない箇所については横木を残置し、流水による浸食を防ぐほか、利用者への安全についても配慮されています。

この登山道の危険箇所はこれまで工事施工した場所だけではなく、かなり広範囲に広がっていることから来年度以降も継続して整備を進めていくことが重要だと感じています。

現在の予定では、来年度に整備計画を含めた設計を行い、令和8年度以降、整備に着手したいと考えています。

これまでも指摘のあるとおり、木道が必要ではないと考えられる場所にも木道が設置されていることから、必要性の有無や植生・流量など有識者の意見を十分に踏まえた上で整備事業を進めていきたいと考えています。

Asahidake Trail Keeper 2024 年度 活動報告

● 登山道整備

① 天女が原登山道

歩道維持管理作業 実施結果 ①

作成: 令和6年 10月 9日
NO. 1

計画者	Asahidake Trail Keeper		施工箇所	天女が原登山道
担当者	氏名	藤このみ	電子メール	fujico.107@gmail.com
			電話番号	090-4204-0236
作業期間又は日時			8月28～29日	天候: 曇り・晴れ
参加者	合計 2 人			
施工内容	木道が腐朽してなくなった箇所において、踏圧による植生と土壌の侵食を止めるため、新たな木道を2基設置した。			
実施結果: ・踏圧による侵食箇所約2.5mの範囲において、長さ1200mmの木道を2基設置した。 ・木道は既存のものと同じ複線。 ・木材を木ダボで繋ぎ合わせる構造とし、L型アンカーピンで固定した。 ※計画では”木道2基を1箇所、または木道1基を2箇所に設置”としていたが、当該箇所は湿地であり侵食を完全に止めるため1箇所に2基とした。 ・今後、侵食箇所の経過観察が必要。				
			施工前 2024/8/7	
↓				
			施工後 2024/9/4	
記録担当者	藤このみ			

② 姿見の池園地

歩道維持管理作業 実施結果 ②

作成: 令和 6年 10月 9日
NO. 1

計画者	Asahidake Trail Keeper		施工箇所	姿見の池園地
担当者	氏名	藤このみ	電子メール	fuji.co.107@gmail.com
			電話番号	090-4204-0236
作業期間又は日時			8月26～29日、9月14日	
参加者			合計 2 人	
施工内容			ガリー化した箇所に段差処理及び床止め施工。 残存植生の保護と周辺植生復元のため法面に石材を配置する施工を行った。	
実施結果: 2019～2023年度施工箇所の上部に同様の施工を行なった。 ・段差処理・床止め工 現地の石材で高さ10cm以下の段差処理4段、各段の間を現地石材と砂で床止め施工。 ・植生復元工 登山道両側法面下部に土砂を受け止める石材を埋め込み、特に残存植生周辺に土砂流失防止のための石材を配置した。 ・特に植生について経過観察を行う。				
段差処理・床止め工 			施工前 2024/8/26	
				
			施工後 2024/8/29	

植生復元工



施工前 2024/8/26



施工後 2024/9/14

植生復元工

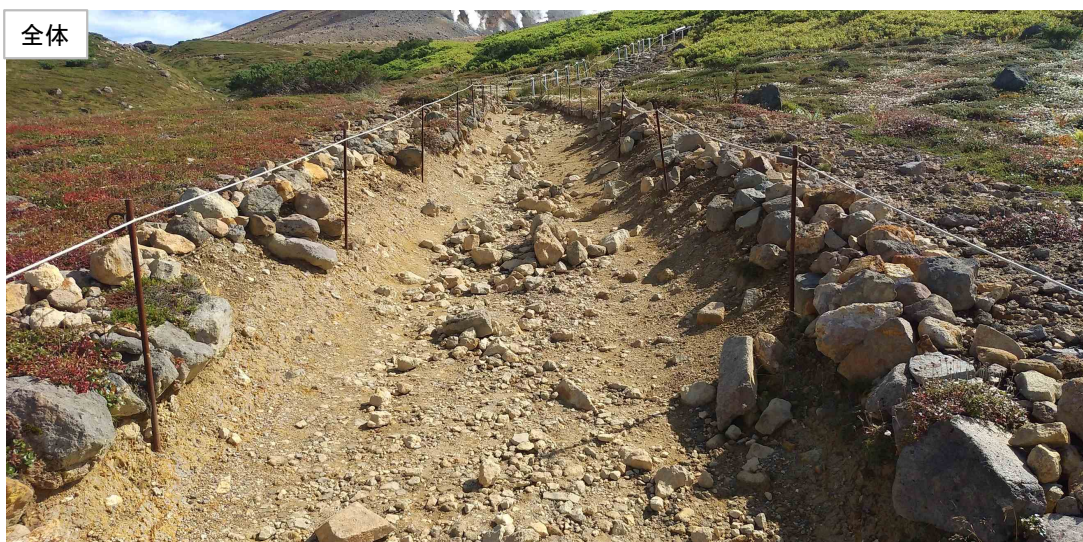


施工前 2024/9/14



施工後 2024/9/14

全体



施工前 2019/9/6



施工後 2024/9/19

記録担当者

藤このみ

③ その他

- ・ 木道メンテナンス（天女が原登山道）
- ・ 植生復元工、分散排水溝等経過観察（姿見の池園地・天女が原登山道）
- ・ 旭岳自然保全員との協働施工（旭岳姿見の池園地）

石階段組替え（第1展望台）



● 旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務（環境省東川管理官事務所より受託）

- ・ 裏旭野営指定地に携帯トイレブース/簡易案内標識設置
- ・ 裾合分岐に携帯トイレ用衝立（組立式）設置
- ・ 携帯トイレブースの点検/清掃、し尿痕回収、裏旭野営指定地における利用調査等

令和6年12月23日
旭岳ビジターセンター
(夏季：旭岳自然保全員)
大塚航平

旭岳姿見の池園地 階段補修報告書

東川町大雪山国立公園保護協会「自然保護対策事業」

受託者：NPO 法人大雪山自然学校

- ・補修場所

旭岳 姿見の池園地 第一展望台（詳細は次項参照）

- ・作業日時

令和6年9月1日～9月7日

- ・作業内容

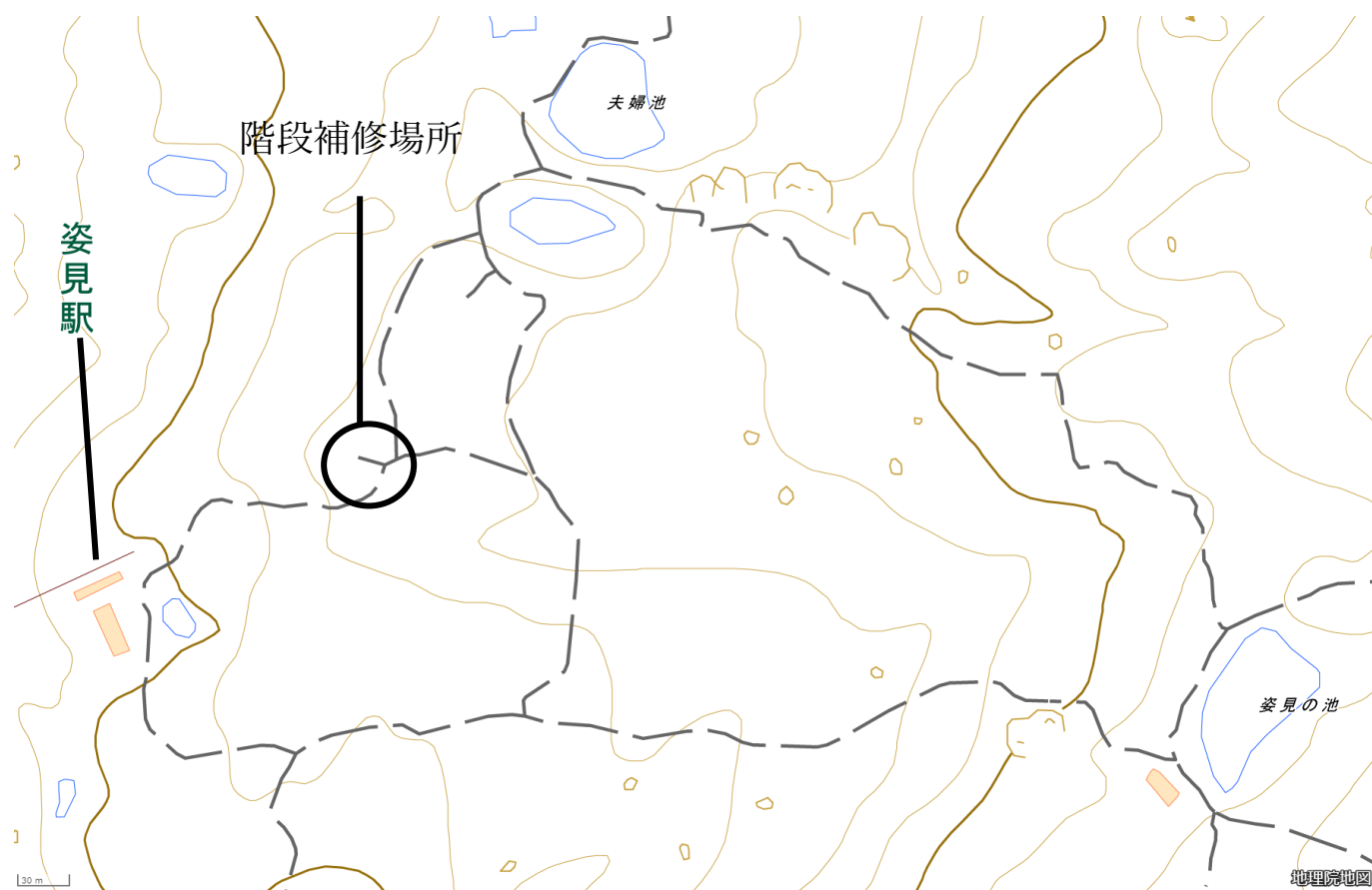
次項に示した位置の階段について、階段踏面に使用されている石の向きが不ぞろい（傾斜している・踏面が鋭角で踏み場がほぼない）または、蹴上が高すぎる状態の改善を行った。

- ・既存の石の向きを変え平らな面を出した。
- ・段ごとの高さを揃え水平にした。
- ・石が足りない場合は涸れ沢より石を運び追加した。

※第一展望台は姿見駅から近く利用者が多いため、通行を妨げないよう配慮しながら作業を行った。

・作業位置

旭岳姿見の池園地散策路内、第一展望台の階段



・全体の写真（下から）



作業前



作業後

・全体の写真（上から）



作業前



作業後

・階段下り方向 作業前後比較



作業前



作業後

・階段上り方向 作業前後比較



作業前



作業後

作業前は石の平らな面は殆ど地中に埋まり、尖った部分の先端を踏んで歩く状態であった。高さも不揃いで非常に歩き辛い階段であった。

特に降り方向にでは、作業前は次の段が分かりづらく石の平らな面が少ない状態で非常にバランスが悪く、次に足を置く石を探して一段ずつ慎重に降りる必要があった。

作業では、一度石を掘り出し平らな面を上に向け埋め直す作業や、石の下を掘り高い部分を下げ、傾きを直す作業を行った。

作業後は段が分かりやすく、一段の高さも低い状態になり、上り下りどちらにおいても次の段を探して立ち止まる歩行者はほとんど見られなくなった。

・その他

動画による作業前後の比較

下記 URL・QR コード参照

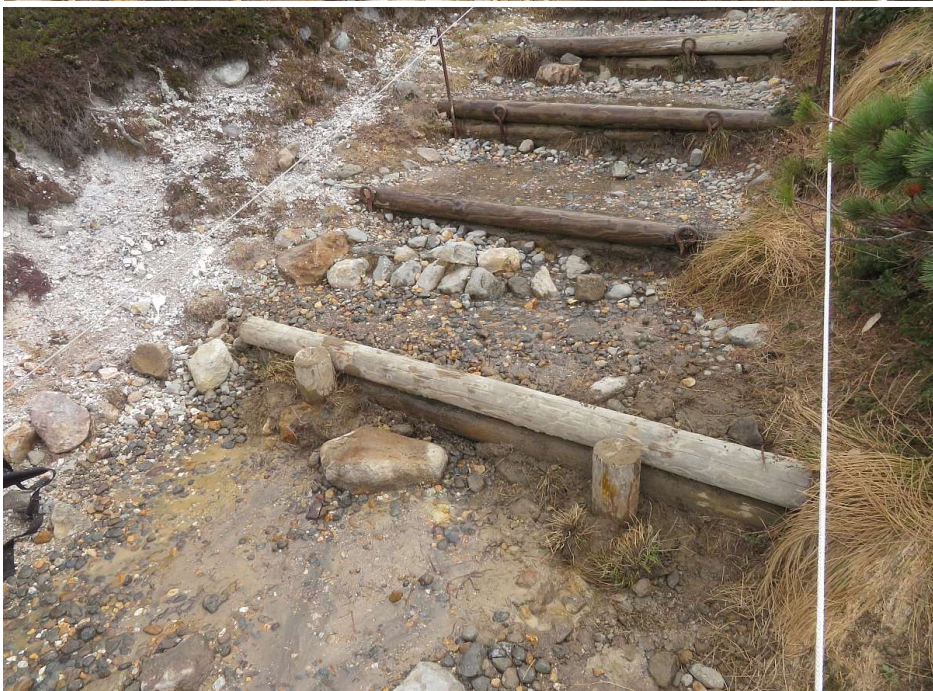


<https://drive.google.com/drive/folders/1iIKv8tl-UYjPhvrkaqytkPAHjDzWkmWK?usp=sharing>

以上

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.1

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年6月16日(日) 09:00～10:30		天候: 晴れ
参加者	合計 5 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	姿見駅から第一展望台に向かう階段のステップ修復 傾きが大きくなった杭を打ち直し修正		
実施結果: 杭の傾きが正常に戻り、外れかけていた丸太が固定された。 ※  			
記録担当者	大塚航平		

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.2

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年6月30日(日) 14:00～15:30		天候: 曇り
参加者	合計 6 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	天女ヶ原登山道から姿見の池園地に接続する手前の階段の踏面や蹴上の崩れ・穴補修		
実施結果: 踏面に空いた穴が塞がり、流水による穴の拡大を防止できた。 ※    			
記録担当者	大塚航平		



記録担当者

大塚航平

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.3

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）			
担当者	氏名	大塚航平	電子メール	otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号	0166-82-6500
作業日時	令和6年7月30日(月)10:30～11:20		天候:	曇り
参加者	合計　　1　人　※別添として参加者名簿を添付すること。			
施工内容	夫婦階段上部(第4展望台手前) 外れかけて浮き上がった階段の丸太を再固定し、下段に流れた砂利を上段に戻した。			

実施結果: 浮き上がった丸太が固定されたことで安全に通行できるようになった。



記録担当者

大塚航平

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.4

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）			
担当者	氏名	大塚航平	電子メール	otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号	0166-82-6500
作業日時	令和6年8月3日(土)10:30～12:00		天候:	晴れ
参加者	合計　　1　人　※別添として参加者名簿を添付すること。			
施工内容	すり鉢池から第3展望台へ上がる地点。 劣化した木材と突出したボルトの撤去。			

実施結果: 安全に通行できるようになった。



記録担当者

社本麗南

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.5

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年8月3日(土) 14:00～15:00		天候: 曇り
参加者	合計 1 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	第一展望台北西側法面が、雨の崩れや人が足で削った跡があり崩れていたため、補修作業した。		
実施結果: 補修箇所と周辺が馴染むように補修。時間が経って形状は問題はない。 ※  			
記録担当者	岩田 充		

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.6

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年8月12日(月)10:00～11:00		天候: 晴れ
参加者	合計 1 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	第一展望台付近の階段補修(ステップの丸太の浮き・外れを補修)		
実施結果: ステップの丸太が固定され、歩行が安全になった。 また、砂利の流出が止まった。 ※  			
記録担当者	大塚航平		

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.7

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年8月20日(火) 11:00～12:00		天候: 晴れ
参加者	合計 1 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	第一展望台から満月沼へ向かう階段下の法面が、雨のため石が崩れ落ちていた。周りの石を詰め込み補修。 石と砂利で隙間を埋め崩れぬよう作業。		
実施結果: 補修後も形状が変わらず、維持されている。			
※			
			
記録担当者	岩田 充		

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.8

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年8月25日(日) 13:30～14:30		天候: 曇り
参加者	合計 7 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	天女ヶ原登山道から姿見の池園地に接続する手前の階段の踏面や蹴上の崩れ・穴補修		

実施結果: 踏面に空いた穴が塞がり、流水による穴の拡大を防止できた。

※



記録担当者

大塚航平

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.9

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年8月25日(日) 15:00～16:00		天候: 晴れ
参加者	合計 6 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	地面が踏圧や流水等の影響でV字に削られていた箇所、砂利石を敷いた。		
実施結果: 扶られた部分が埋まり、歩行者の通行が容易になった。 ※  			
記録担当者	大塚航平		

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.10

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年9月1日(日)～9月7日(土)		天候: -
参加者	合計 7 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	第一展望台の階段補修 段ごとに石を組み直し踏面、蹴上の不揃いを修正した。 ※別紙報告書あり		
実施結果: 段が平均化されたことにより非常に歩きやすい階段になった。 ※			
			
記録担当者	大塚航平		

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.11

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年9月23日(日) 13:00～14:00		天候: 晴れ
参加者	5 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	噴気孔分岐に向かう途中の階段にて、石が外れた下段1段目を補修した。		

実施結果: 補修前は写真右側のみ使われていたが、補修後は左側も通行者が見られた
※



記録担当者

大塚航平

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.12

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年10月8日(火) 11:00～12:00		天候: 曇り
参加者	合計 2 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	第4展望台の先の階段 1段目の外れた石を直した。		

実施結果: 階段の1段目が戻ったことで歩きやすくなった。

※



記録担当者

大塚航平

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.13

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）		
担当者	氏名	大塚航平	電子メール otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号 0166-82-6500
作業日時	令和6年10月25日(金) ～ 10月26日(土)		天候: 曇り
参加者	1 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。		
施工内容	裾合平分岐看板付近の法面が崩れたため、補修をした。 崩れた所を石組みと土盛りにて補修。 降雨や降雪後、確認が必要。		

実施結果: 崩れた法面が復元された。



記録担当者

岩田 充

令和6年度 歩道維持管理作業 実施報告書

No.14

計画者	大塚航平（大雪山国立公園保護協会委託事業「自然保護対策事業」で実施）			
担当者	氏名	大塚航平	電子メール	otsuka@daisetsu.or.jp
			電話番号	0166-82-6500
作業日時	令和6年10月27日(日) ～		天候:	曇り
参加者	1 人 ※別添として参加者名簿を添付すること。			
施工内容	姿見展望台「姿見の池」の看板が大きく傾き倒れそうな状態を修復した。			

実施結果: 傾きやガタが直り安全になった。



記録担当者

大塚航平

令和6年度利用者数 避難小屋 1,025名 テント場 994名

- ・昨年度は、ヒグマの出没により避難小屋及びテントサイトの利用自粛措置により大幅な入込減となったが、今年度は概ね入込は回復したところである。^{※参考1}
- ・しかしながら、7月にヒグマの出没が見られたこと、また高原沼巡りコースにおいて人馴れしたヒグマの出没が確認されるなど、今後も警戒する必要がある。
- ・白雲岳避難小屋周辺のヒグマの対策として、来年度は電気牧柵の設置による実証実験を進める予定である（今年度は関係機関と協議のうえ、現地調査及び書類の作成）。

※参考1：過去5年間の利用実績

	避難小屋	テント場
令和1年	1,183	1,107
令和2年	69	55
令和3年	907	1,377
令和4年	1,141	710
令和5年	775	292

ヒグマ出没における課題

- ・登山者、縦走者、現地管理人の安全確保
- ・登山（特に縦走中の方）の計画変更と、管理人の対応増
- ・遵守事項の啓発、情報提供
- ・利用者の減少により協力金収受額への影響
- ・自然公園法違反を含めた不適切行為への対処
- ・周辺登山道整備の中止等の影響
- ・他の避難小屋やテントサイトへの混雑への影響
- ・問題個体の発生の抑止

避難小屋としての対応方針の策定

○基本的考え方

ヒグマの生息環境の保全、利用者に対する対応方針の設定、ヒグマルールを事前周知し、同地の利用環境の確保

○対応方針

利用者の行動をコントロールすることで、問題個体の発生を抑止ヒグマの出没状況に応じ、施設の閉鎖（解除）の判断を行う判断基準を整備

○各関係機関との協力体制の整備



今年度の高原温泉沼巡りコースにおける人馴れした問題個体。利用者が不適切行為を行わないのはもちろん、万一の際の冷静な対応も必要となる。

※（公社）北海道山岳整備の動画より

白雲岳避難小屋の今後の展開

現状：大雪山の縦走拠点施設として管理人を配置し、登山者の安全確保や利用者指導等重要な役割を果たしている。

将来的な課題

①縦走路上に存在する他の避難小屋とのバランス（忠別岳避難小屋・ヒサゴ沼避難小屋など）

利用や周辺登山道の整備進捗が白雲岳避難小屋周辺に偏り、オーバーユースを伴う傾向にある。課題解決には他の避難小屋の再整備や管理運営が求められる（事業執行者及び環境省の動向に今後注視）、また安定した避難小屋の管理運営には黒岳石室と共に、小屋使用料（協力金）のあり方について進めなければならない。

②大雪山全体における協力金の展開

現状、自治体単位での取組となり、各拠点での目的別の取組となっているが、統一した目的のための協力金の収受方法を、行政界を超えた議論展開が必要である。

（各登山口での収受検討（キャッシュレスなど）、利用目的の明確化（整備計画） ←国・道・市町のビジョンを明確化と担い手の育成確保（保全と利用の有識者の存在）

大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会
登山道補修技術検討会 設置要綱（案）

（目的）

第1条 大雪山国立公園連絡協議会表大雪登山道維持管理部会及び東大雪地域登山道維持管理部会規約（以下、規約という。）第3条（2）に基づき、登山道の適正な維持管理を行うために必要となる登山道補修に関する施工方法の検証及び技術向上等の検討を行うため、登山道補修技術検討会（以下、技術検討会という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 技術検討会は、前条の目的を達成するため、次の事項を検討する。

- （1）「大雪山ビジョン」及び「大雪山国立公園登山道管理水準」並びに「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」に基づく、登山道補修に関する施工方法の検証及び技術の向上について
- （2）登山道補修計画の検討、補修結果の評価及び補修に関する改善策の検討について
- （3）その他、前条の目的を達成するために必要な事項

（構成）

第3条 技術検討会は、大雪山国立公園連絡協議会登山道維持管理部会（表大雪地域及び東大雪地域）の構成員及びオブザーバーの中から、登山道補修に従事する維持管理団体、登山道補修に関する専門的知見を有す学識経験者及び技術者、登山道を管理する機関をもって構成する。

- 2 構成員は、検討が必要な事項に応じて、事務局が指名する。

（運営）

第4条 技術検討会は、各年度において必要に応じて事務局が招集し、事務局員が議事進行を務める。

- 2 技術検討会の構成員及び事務局は、必要に応じ、規約第4条により置かれたコーディネーターの意見を聴取することができるものとする。
- 3 構成員の過半数が必要と認める場合、構成員以外の出席を求め、その意見を聴くことができる。

（事務局）

第5条 技術検討会の事務局を大雪山国立公園管理事務所に置く。

（その他）

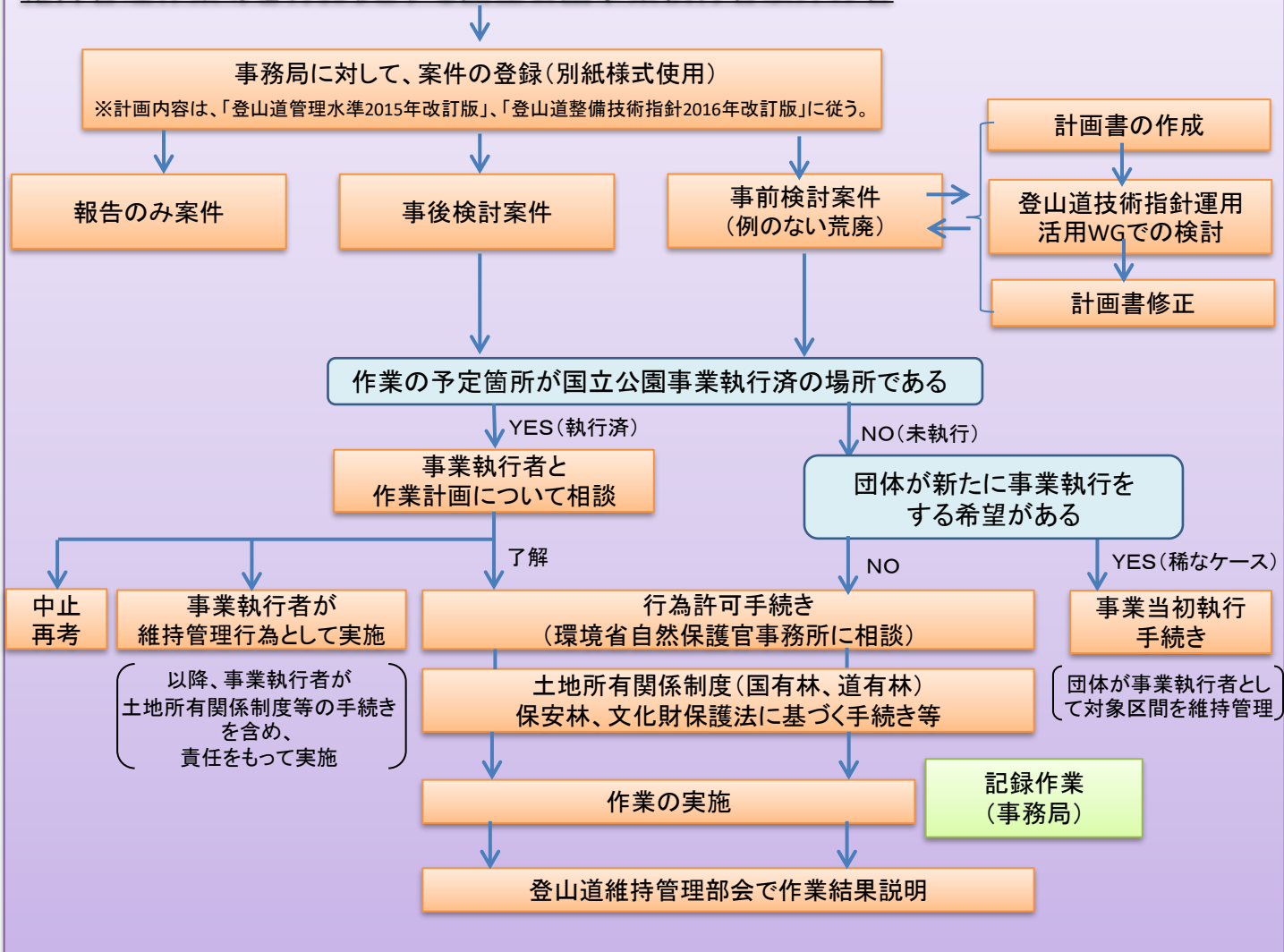
第6条 この要綱に定めるもののほか、技術検討会の運営に関し必要な事項については、必要に応じて事務局が別に定める。

付 則 この規約は令和 年 月 日から施行する。

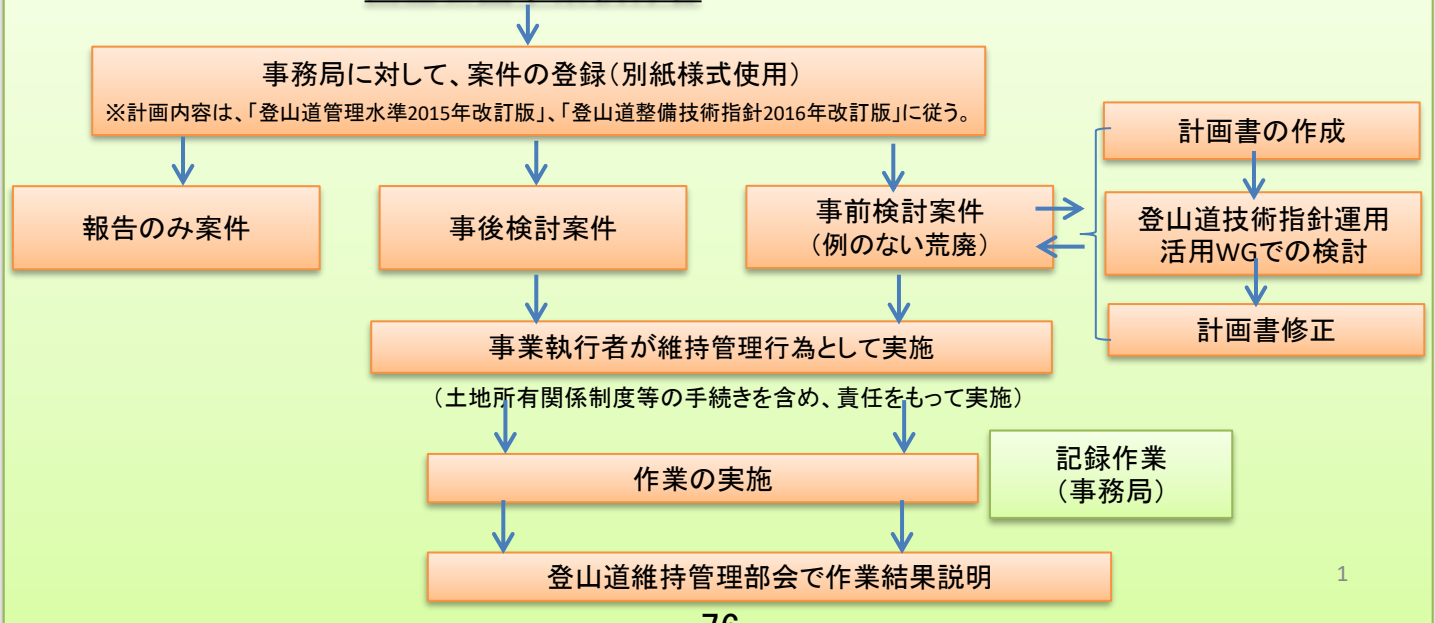
(1) 歩道の維持管理作業(補修等)の場合の実施手順

令和2年3月時点版

維持管理作業等を行おうとする国立公園事業執行者以外の者



国立公園事業執行者



(1) 歩道の維持管理作業(補修等)の場合の実施手順

令和7年1月修正案

作業を行おうとする国立公園事業執行者以外の者

作業の予定箇所が国立公園事業執行済の場所である

YES(執行済)

NO(未執行)

事業執行者と
作業計画について相談

計画者において、関連法令等
に基づく手続き要否の確認

NO(課題あり)

中止
再考

許可や同意
の見通しが立
たない場合

中止
再考

OK(同意)

作業計画案件の登録(事務局に提出)

&

必要に応じ、各種許認可等手続き
、土地所有者等との調整

登山道維持
管理DB
への掲載
(事務局)

報告のみ案件

[以降、(2)へ]

事後検討案件

事前検討案件
(例のない荒廃)

計画書の作成

登山道補修技術
検討会での検討

計画書修正

事業執行者が
維持管理行為と
して実施

作業の実施

事務局へ作業結果を報告

登山道維持管理DBへの掲載(事務局)

登山道維持管理部会での作業結果共有
必要に応じ、登山道補修技術検討会での振り返り、検討

今後の作業計画
への反映

[以降、下図のフローへ]

国立公園事業執行者

登山道維持
管理DB
への掲載
(事務局)

作業計画案件の登録(事務局に提出)

&

必要に応じ、各種許認可等手続き
、土地所有者等との調整

報告のみ案件

事後検討案件

事前検討案件
(例のない荒廃)

計画書の作成

登山道補修技術
検討会での検討

計画書修正

作業の実施

事務局へ作業結果を報告

登山道維持管理DBへの掲載(事務局)

登山道維持管理部会での作業結果共有
必要に応じ、登山道補修技術検討会での振り返り、検討

今後の作業計画
への反映

(2) 歩道の維持管理作業(刈り払い等)、看板類の設置・補修、歩道の表示の場合の実施手順

令和2年3月時点版

維持管理作業等を行おうとする国立公園事業執行者以外の者

作業内容の検討(別紙様式による計画書は不要)

※計画内容は、「登山道管理水準2015年改訂版」、「登山道整備技術指針2016年改訂版」に従う。

作業の予定箇所が国立公園事業執行済の場所である

YES(執行済)

事業執行者と
作業計画について相談

了解

中止
再考

事業執行者が
維持管理行為として実施

以降、事業執行者が
土地所有関係制度等の手続き
を含め、
責任をもって実施

行為許可手続き
(環境省自然保護官事務所に相談)

土地所有関係制度(国有林、道有林)
保安林、文化財保護法に基づく手続き等

作業の実施

別紙様式による実施結果の報告(事務局へ)

NO(未執行)

団体が新たに事業執行を
する希望がある

NO

YES(稀なケース)

事業当初執行
手続き

団体が事業執行者とし
て対象区間を維持管理

国立公園事業執行者

作業内容の検討(別紙様式による計画書は不要)

※計画内容は、「登山道管理水準2015年改訂版」、「登山道整備技術指針2016年改訂版」に従う。

事業執行者が
維持管理行為として実施

(土地所有関係制度等の手続きを含め、責任をもって実施)

別紙様式による実施結果の報告(事務局へ)

(2) 歩道の維持管理作業(刈り払い等)、看板類の補修、歩道の表示の場合の実施手順

令和7年1月修正案

作業を行おうとする国立公園事業執行者以外の者

作業の予定箇所が国立公園事業執行済の場所である

YES(執行済)

NO(未執行)

事業執行者と
作業計画について相談

計画者において、関連法令等
に基づく手続き要否の確認

NO(課題あり)

OK(同意)

許可や同意
の見通しが立
たない場合

必要に応じ、各種許認可等手続き
、土地所有者等との調整

中止
再考

中止
再考

事業執行者が
維持管理行為と
して実施

作業の実施

事務局へ作業結果を報告

登山道維持管理DBへの掲載(事務局)

登山道維持管理部会での作業結果共有

今後の作業計画
への反映

[以降、下図のフローへ]

国立公園事業執行者

作業計画の検討

作業の実施

事務局へ作業結果を報告

登山道維持管理DBへの掲載(事務局)

登山道維持管理部会での作業結果共有
必要に応じ、登山道補修技術検討会での振り返り、検討

今後の作業計画
への反映

■報告事案 「グレードマップ英語版」増刷について

数年前より在庫不足となっていた「To All Mountaineers」、
コロナ収束後、インバウンドの増加、インバウンドの遭難事故、ルール違反、携帯トイレ問題なども増えている、外国人向けの登山情報も含めたグレードマップが必要。

(実際、インバウンドはインターネットで訪日前に事前に下調べしてくるようだが、日本国内では紙の地図を利用する人も多い。)

(修正箇所について)

- ・「To All Mountaineers」は大雪山グレードが記されていないため、2023 年度作成のグレードマップ日本語版の日本語表記を英語に修正。
- ・「To All Mountaineers」の裏面の注意事項を元に、レイアウト変更、修正を行う。
- ・裏面の注意事項「To Preserve Daisetsuzan」は昨年度作成した山岳ルールを掲載予定。
- ・大雪山グレードに関わる記載がないため、その説明も掲載予定。
- ・裏面は文字量が多いため、よりくわしい説明が必要な部分は QR コードで、大連協 HP で内容を確認していただける様に誘導。
- ・裏面に関して、修正、追加の要望があれば、1/20 までに高橋まで連絡いただきたい。



Watch Out, Mountaineers!

All kinds of risk factors are involved in nature. Mountaineers should assume personal responsibility for the safe enjoyment of the natural environment and use appropriate judgment to avoid risks. Here are some precautions you need to keep in mind in Daisetsuzan.

Outline of Daisetsuzan National Park

Situated in the center of Hokkaido, Daisetsuzan National Park is a vast area that spans about 230,000 hectares. This mountain national park has the largest primitive natural environment in Japan. With Mount Asahi (2,291 m), the highest peak in Hokkaido and the main peak in the park, Daisetsuzan has mountains at elevations of around 2,000 meters.

A wide variety of alpine plants found in the alpine zone create vast fields of flowers; you can see snowy gorges and large snow patches even in high summer; and the high moor is dotted with a number of small lakes and swamps of varying sizes. All of these present a primitive homeland that the Ainu used to call "Kamuimintara" (God's playground).

Vast virgin forests spread out around the alpine zone. Snowmelt from the summit becomes the headwaters of the Ishikari and Tokachi rivers, creating gorges with artistic columnar joints, which are found in Souunkyo and Tenninkyo gorges.

In addition, large mammals like the brown bear and Ezo deer and rare wild birds like the black woodpecker (*Dryocopus martius*) and Blakiston's fish owl (*Ketupa blakistoni*) inhabit the forests of Daisetsuzan. Another inhabitant is the Japanese pika, a survivor of the ice age. Eversmann's Parnassian (*Parnassius eversmanni menetries*) and the Freija's Fritillary (*Classiana freija asahidakeana*) live nowhere else in Japan but in Daisetsuzan. Such alpine butterflies and many other kinds of animals make Daisetsuzan their home.



Weather Conditions

While the mountain ranges in Daisetsuzan are at a relatively low elevation of around 2,000 meters, the high latitude (situated in the north) makes the environment comparable to the 3,000-meter peaks of Honshu. Mountaineers must pay close attention to dramatic changes in weather conditions.



Daisetsuzan has only summer and winter:

May	May is the height of the ski mountaineering season on the mountain side of Kurodage, Mount Asahi, and Mount Tokachi. It is still winter in the mountains.
June	While the snow has started to melt, it is not unusual to see snowfall. The summit is still covered with snow.
July to August	More snow is melting, but it is not until around mid-July that summer finally arrives in the mountains. No longer covered with snow, alpine plants create fields of flowers. However, temperatures can sometimes still fall below zero. Sometime between the end of July and the beginning of August is summer in Daisetsuzan. There is less and less lingering snow every day and fields of flowers bloom as if following the melting snow. Autumn begins between mid-August and the end of August; it is not unusual to see snow on the summit.
September	The color change of the leaves starts from the mountaintops and descends all the way down to the base of the mountains. It is time for the first snow of the season. You see the first of winter on the mountaintops in the middle of September. Winter comes relatively early; the snow will be up to your knees by the end of September.
October	Winter has arrived. The snow accumulates gradually, and you see the first snow of the season at the base of the mountains.
November to April	It is the middle of winter, and it is bitter cold.



Climate in the Summer

Temperature	Even the summer can be cold in Daisetsuzan. Snowy gorges can still be found everywhere, even in July; there are permanent (perennial) snowfields in some areas. When the sun disappears, you might want your jacket even during the day, and when the wind blows, it will make you shiver. Do not dress casual; no short pants or short sleeves. Bring warm clothing.
Fog	A frightening feature of Daisetsuzan is the fog. It is hard to set a goal on flat terrain near the summit, and even experienced hikers may get lost. Mountaineers are advised to be very cautious with routes, particularly in a moor or snowy gorge. If you become lost, remain calm. Wait for the fog to lift or cautiously go back to the original location. Either way, do not panic.



Becoming Lost

In order to preserve the indigenous natural landscape, the walkways in Daisetsuzan National Park have only minimal signs and route markers. On some of the mountain trails, you may need to find the trails on your own.



Mountain Trails for Experienced Mountaineers: There are almost no signs or route markers. Even footprints are rare on some routes, and becoming lost is a distinct possibility. In some cases, you may need to use topographical charts and compasses to find the appropriate routes.

Mountain Trails for Intermediate Mountaineers: Minimal signs and route markers are provided. The trails are usually clearly marked because relatively many mountaineers walk on them. There is a chance that you may become lost if visibility is poor. Mountaineers are advised to occasionally check their position while en route.



Mountain Trails for Beginners: Signs and route markers are in place and it is unlikely that you will become lost.

Wildlife

A large number of wild animals inhabit Daisetsuzan National Park. Be careful with some of the animals while trekking or hiking.



1. Brown Bear

The brown bear is fierce and sometimes kills humans. There are no fail-proof safety measures for the bears that inhabit Daisetsuzan National Park. The best way to avoid problems with brown bears is to stay away from them and keep them away from you.

Carry a Bell: A bell works to prevent sudden encounters with brown bears by announcing your presence. When you are hiking along a mountain stream or in areas of low visibility, blowing a whistle, yelling, and clapping your hands are effective. Do not use firecrackers or fireworks; they startle the bears more than necessary. Bears may behave unpredictably, posing grave danger to other mountaineers.

Do not Throw Away Scraps of Food or Garbage: The brown bear has an extremely sensitive sense of smell; they can tell where you have buried scraps of food or garbage in the ground. Throwing away food scraps or garbage is a very dangerous way of attracting brown bears.

Do Not Cook Strong Smelling Foods or Food with Drainage Water: The brown bear's acute sense of smell can even distinguish the smell of the water used to wash rice. Do not cook strong smelling food or food that requires drainage water. Draining the water after washing the dishes produces the same result; wipe the dishes with paper and take the paper with you.

Do Not Bring Pets: Except for specially trained bear dogs, your pets may excite bears and pose a grave danger.

In any dispute between brown bears and humans, the bear is always the one eliminated, even when humans are at fault. The brown bear is the symbol of a rich natural environment. Mountaineers are asked to take care and avoid problems with brown bears in order to keep Daisetsuzan National Park a place where they can live in peace.



2. Japanese Red Fox (*Vulpes vulpes japonica*)

Some Japanese red foxes in Hokkaido have a parasite called Echinococcus. The droppings from the red fox contain the eggs of the parasite. The parasite can be transmitted to humans by eating egg-tainted wild vegetables, drinking contaminated stream water, or if the hands and fingers come in contact with the eggs.

Once you contract Echinococcus, subjective symptoms will not appear immediately; after an incubation period of several to a dozen years, you will begin to suffer discomfort around the upper abdominal area and experience a feeling of fullness. Eventually, you will feel fatigue or develop jaundice from liver failure. If you do not seek medical attention, the lesions may spread to the lungs or brain and can be fatal.

To prevent Echinococcus infections, always heat stream water or snowmelt to 60°C for ten minutes or longer or filter the water to eliminate the eggs before drinking.

wet, you will be cold, or worse if the wind blows. Death from hypothermia is not uncommon in Daisetsuzan in summer. Rain brings the fog and wind, and mountaineers must be careful to avoid taking the wrong path. Rainwear is a must. It is wise to stay in a mountain hut or tent.

Wind

The summits and the tops of mountain ridges can be quite windy. You may not think it is windy at the base of the mountain, in a mountain hut, or in the designated campgrounds, but the wind is often very strong at the summit and on the ridges. When the wind is blowing, Daisetsuzan is cold. You may be fine in the sun, but you want warm clothing in the shade. Exposure to rain and wind can lower your body temperature, putting you in danger. You need to exercise appropriate care in setting up a tent.

- *In Daisetsuzan, the temperature is low in summer; it is different from the mountains in Honshu at the same elevation of 2,000 meters.*
- *To traverse Daisetsuzan, you have to hike and spend nights at an elevation of around 2,000 meters. You need the same level of gear as you would to stay overnight at the elevation of Hotakadake in the Northern Alps.*
- *Between September and June, plan and act as if you climbed mountains in winter.*



Slipping and Falling



There are many snowy gorges and permanent snowfields in Daisetsuzan National Park. When walking on the snow, great caution is required to prevent slipping and falling. Sometimes there is a large space beneath snow as more snow melts. If you hike through snowy gorges in such areas, you may fall and sustain serious injuries. Mountaineers are responsible for closely monitoring the state of remaining snow and the terrain to determine the danger of walking through snowy gorges or lingering snowfields.

In Case of Accidents

If you should be involved in an accident and require rescue, report the incident to the police (dial 110). The police, local private rescue teams, and others confront life-threatening risks to bring to safety. Consequently, victims and their families may be billed for the rescue expenses. Mountain insurance is recommended to cover the expenses of a rescue. Mountaineers should fill out the forest entry form and submit a report on your itinerary beforehand.



To Preserve Daisetsuzan

Mountaineers should be careful of the following points in order to preserve the incredible natural environment of Daisetsuzan National Park:

Clean Daisetsuzan Campaign

This campaign is designed to ensure that each one of us can enjoy climbing the majestic mountains of Daisetsuzan, learn from the natural environment, commune with nature, protect the beauty and value of nature, and pass it on to our offspring for many years to come.

- *Take your garbage with you, along with memories of the beautiful park.*
- *Stay on the trails; do not tread on alpine plants or pick up anything in the environment, not even a tiny stone. Leave everything as you found it.*



Wildlife

The wild animals living in Daisetsuzan National Park should be left alone.



- *Do not feed wild animals.*

human excreta disposal

There is a concern in Daisetsuzan National Park that excrement from mountaineers affects the environment and the landscape.



- *Use the restroom before climbing the mountain.*
- *Use a restroom whenever possible.*
- *Use a portable toilet when there is no restroom.*

Camping

Camping affects the natural environment. You are responsible for minimizing the impact, so please follow the rules listed below to ensure that all visitors will enjoy Daisetsuzan:



- *Camp only in designated areas in Daisetsuzan National Park. Find a campground or designated camping area.*
- *Campfires are prohibited in mountainous areas.*
- *Pack out food and garbage.*
- *Do not cook anything that releases drainage water.*
- *Do not set up tents on plants.*
- *Use the water supply sources carefully.*



Mountain Trails

Damage to mountain trails is becoming a problem in Daisetsuzan National Park. Mountaineers can help prevent damage:

- *Cover walking sticks with a protective cap.*
- *Do not use walking sticks off the mountain trails.*
- *Walk only on the mountain trails.*
- *Even the mountain trails have running snowmelt or rainwater, use long gaiters or other gear so that you can remain on the mountain trails. This is to preserve the natural environment (vegetation and geological formation) outside the mountain trails.*
- *Mountaineers must understand that water from snowmelt or rain combined with the tread of many hikers can severely erode the mountain trails. Forming groups of many people make it even worse. If possible, avoid climbing mountains during these periods.*



令和6年度大雪山国立公園入山者数調査（登山者カウンター等による推計結果）（案）

【概要】

令和6年度における下表の計26の登山口での調査結果は以下のとおり。調査位置は別紙参照。

- ・月別入山者数では、9月が最も多く、次いで7月、8月が多かった。
- ・登山口別入山者数では、黒岳が最も多く、次いで姿見の池（旭岳方面）、十勝岳温泉（安政火口）が多かった。
- ・カウンターの精度を考慮すると、大雪山国立公園の入山者数は、約11～14万人であると考えられる。

調査登山口		合計	6月	7月	8月	9月	10月	調査方法	調査期間
1	黒岳登山口	40,000	2,500	11,000	8,900	14,000	3,700	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月20日～10月15日
2	銀泉台登山口（第一花園下）	9,400	1,100	2,600	1,000	4,600	100	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月14日～10月2日
3	高原温泉登山口（緑岳コース）	2,900	500	900	500	900	100	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月10日～10月8日
4	高原温泉登山口（沼めぐり登山コース）	3,700	200	500	400	2,200	400	ヒグマ情報センター利用者数資料	令和6年6月17日～10月6日
5	クチャンベツ登山口	1,500	100	600	400	300	40～60	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月11日～10月11日
6	松仙園登山口	700	0～50	50～100	100	500	0～50	熱感知式カウンターからの推計	令和6年7月14日～9月30日
7	愛山溪温泉登山口	2,100	40～60	400	400	1,100	100	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月24日～10月9日
8	姿見の池（裾合平方面）	11,000	1,400	4,900	1,400	3,300	400	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月1日～10月8日
9	姿見の池（旭岳方面）	31,000	3,800	8,800	7,400	9,400	1,300	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月1日～10月8日
10	天人峡登山口	500	50～100	200	50～100	100	0～50	人感センサー式カメラからの推計	令和6年6月1日～10月8日
11	美瑛富士登山口	2,100	400	300	900	300	0～50	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月5日～10月7日
12	十勝岳登山口（美瑛岳方面）							故障のためカウントなし	令和6年6月1日～10月9日
13	十勝岳登山口（十勝岳方面）	13,000	2,200	3,300	3,300	3,600	600	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月1日～10月9日
14	十勝岳温泉（安政火口）	19,000	2,400	4,400	4,200	3,900	3,800	熱感知式カウンターからの推計	令和6年6月1日～10月9日
15	原始ヶ原登山口	500	200	100	100	50～100	0～50	人感センサー式カメラからの推計	令和6年6月5日～10月7日
16	十勝岳新得側登山口	0～50	0～50	0～50	0～50	0～50	0～50	国有林入林簿からの推計	令和6年6月1日～10月31日
17	トムラウシ山登山口（短縮コース）	3,300	200	1,300	800	900	0～50	赤外線式カウンターからの推計	令和6年5月22日～10月9日
18	トムラウシ山登山口（温泉コース）	200	0～50	50～100	50～100	40～60	0～50	熱感知式カウンターからの推計	令和6年5月22日～10月9日
19	石狩岳登山口	1,000	200	300	200	300	50～100	熱感知式カウンターからの推計	令和6年5月28日～10月22日
20	ユニ石狩岳登山口	200	0～50	0～50	0～50	50～100	0～50	国有林入林簿からの推計	令和6年5月10日～11月13日
21	ニペソツ山登山口（幌加温泉コース）	1,300	300	300	200	400	200	熱感知式カウンターからの推計	令和6年5月28日～10月22日
22	ウペペサンケ山糠平コース登山口	600	50～100	50～100	100	300	0～50	熱感知式カウンターからの推計	令和6年5月23日～10月8日
23	白雲山土幌側登山口	800	200	100	50～100	200	100	国有林入林簿からの推計	令和6年4月1日～10月31日
24	白雲山鹿追側登山口	1,900	500	300	300	500	300	国有林入林簿からの推計	令和6年4月1日～10月31日
25	東ヌプカウシヌプリ登山口	1,800	400	300	300	500	400	国有林入林簿からの推計	令和6年4月1日～10月31日
26	南ペトウトル山登山口	200	0～50	0～50	0～50	40～60	40～60	国有林入林簿からの推計	令和6年4月1日～10月31日

【数値の取扱方法】

計測方法や設置箇所ごとに誤差が生じるため、次のように取り扱った。

- ①各登山口の登山者カウンター等の月別計測値を記入
- ②明らかなエラー値を除外
- ③各登山口の年間合計及び各月の月間合計を算出
- ④誤差を考慮し、次のように表記
 - ・計測値 1000～ : 有効数字が2桁となるよう四捨五入
 - ・計測値 100～999 : 10の位を四捨五入
 - ・計測値 61～99 : 50～100
 - ・計測値 40～60 : 40～60
 - ・計測値 0～39 : 0～50

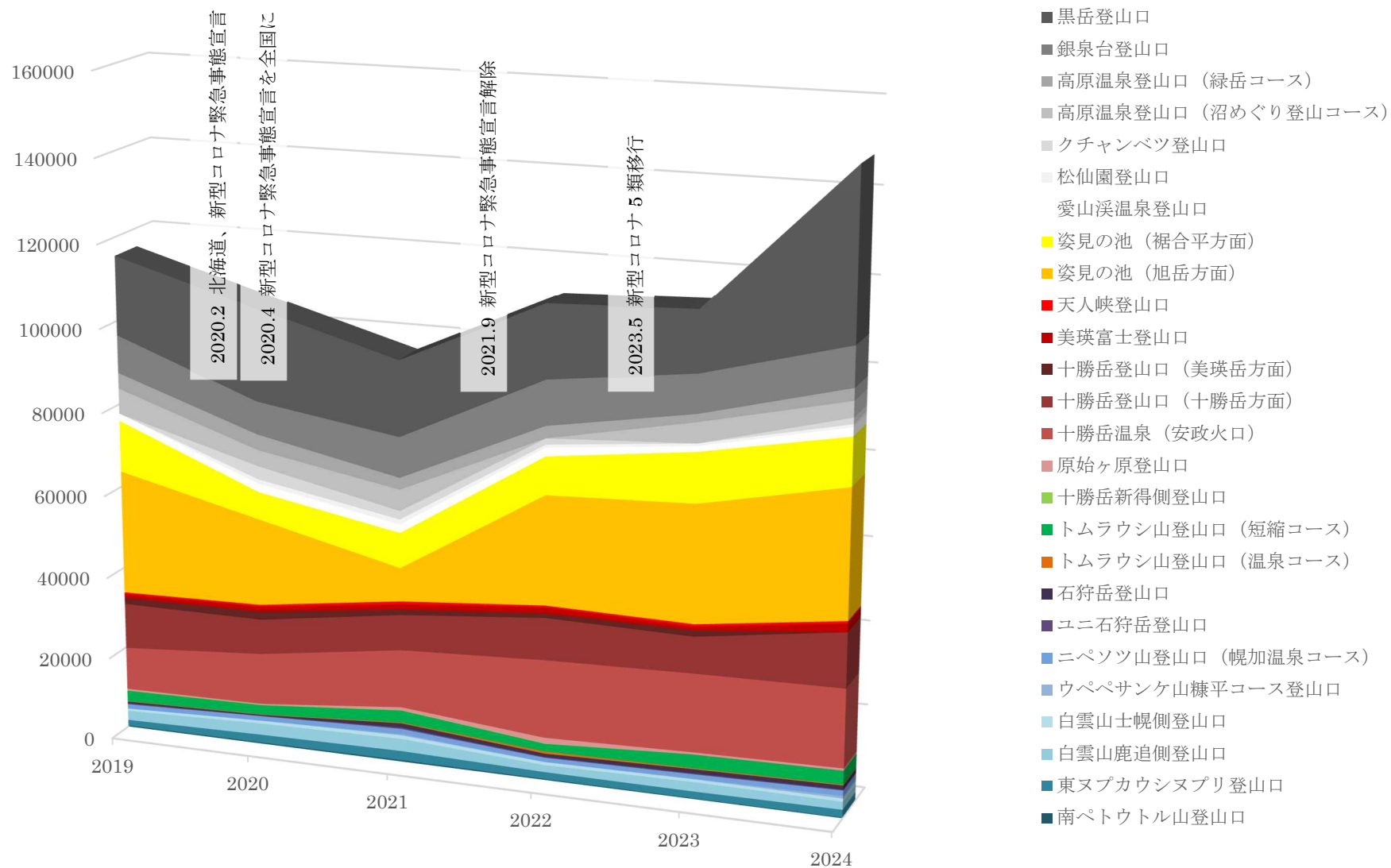
※①～④の操作により、次の点に注意が必要である。

- ・各登山口の月別入山者数の合計と年間合計は必ずしも一致しない。
- ・各月の登山口別入山者数の合計と月間合計は必ずしも一致しない。

【備考】

- ・現時点において、利用者が比較的少なく、登山者カウンター等による計測値が全調査登山口での計測値の誤差の範囲内になることが考えられる登山口については調査対象外としている。
- ・登山者カウンター等の設置期間は、雪解け後から積雪前までのため、未設置期間における入山者数は把握していない。
- ・熱感知式カウンターの精度検証結果より、入山者数の実数は計測値よりも一定程度少なくなることが明らかになっており、誤差は約110%～148%と仮定している。
- ・銀泉台では、第一花園のみを採勝した人数を把握するため、第一花園の上下で調査を行っており、第一花園上での調査結果は、年間：8,400、6月：1,100、7月：2,500、8月：900、9月：3,800、10月：40～60であった。
- ・姿見の池の裾合平方面及び旭岳方面には、周回コースのみを採勝した人数は含まれていない。
- ・松仙園登山道については、開通期間（7月14日～9月30日）において、一方通行運用の起点である松仙園登山口で調査を行った。
- ・十勝岳新得側登山口については、令和6年度は登山口へ通じるシートカチ支線林道が通行止めであった。
- ・ウペペサンケ山では、糠平川迂回林道と糠平川沿い作業道との合流地点にカウンターを設置した。
- ・雪解けの早い然別湖外輪山については早くから入山があり、4～5月の国有林入林簿の集計では、白雲山士幌側登山口：400、白雲山鹿追側登山口：400、南ペウトル山登山口：40～60、東ヌプカウシヌプリ登山口：400であった。

大雪山国立公園入山者数



<大雪山国立公園ビジョン>

まもり、活かし、つなげよう みんなでつくる、世界を魅了する大雪山国立公園

- | | |
|------------------------------|--|
| (1)大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園 | ⇒大雪山グレードに応じた保全 |
| (2)魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園 | ⇒大雪山グレードに応じた管理と利用 |
| (3)つながっていく国立公園 | ⇒来訪者に向けた情報発信
⇒大雪山国立公園に関わるすべての人々に向けた価値の発信 |
| (4)みんなが協働して管理運営する国立公園 | ⇒協働型管理体制の維持、管理運営への利用者の参加・地域連携
⇒みんなが学び成長し将来世代へ引き継ぐ国立公園 |

「協働型管理」によるビジョンの実現

- ◆保全対策のための計画づくり
- ◆自然環境の保全・登山道等管理の取組実施
- ◆登山道管理者の明確化

- ◆登山道等情報の記録・共有
- ◆登山道補修技術の検証・向上
- ◆登山道管理水準等の見直し

- ◆人材育成
- ◆取組成果等の情報発信
- ◆新たな賛同者・支援の獲得

- ◆保護と利用の仕組みづくり
- ◆一元的な管理運営体制の構築

＜資料5-2＞大雪山国立公園ビジョンに基づく登山道等の協働型管理（工程案）

2024年7月現在

取組事項	主な取組項目	2023(R5)年度までの取組内容	2024(R6)年度	2025(R7)年度	2026(R8)年度以降	備考
(1)大雪山の自然環境が守られ、より豊かになった国立公園 ⇒大雪山グレードに応じた保全						
(2)魅力を活かし、質の高い利用体験ができる国立公園 ⇒大雪山グレードに応じた管理と利用						
●保全対策のための計画づくり	○優先度の高い路線の保全計画 ○実施結果を踏まえた順応的管理 ○野営指定地等の管理方策の検討	・優先度の高い路線(中岳裾合平線(R3)、大雪山縦走線、ヤンベタツプ五色岳線等)における調査・設計を実施	・登山道の現状及び管理状況等を踏まえた大雪山全体における優先路線・箇所の確認、共有 ・縦走線(五色岳～ヒサゴ分岐)の追加設計			・＜別紙＞登山道の管理状況を参照 ・登山道管理に加え、野営指定地、避難小屋、トイレ等の管理のあり方についても併せて検討
●自然環境の保全・登山道等管理の取組実	○自然環境保全のための基盤的整備 ○登山道管理者と利用者等の協働による維持管理	・基盤的整備(中岳裾合平線、ヤンベタツプ五色岳線等)を実施 ・維持管理(層雲峡勇駒別線、松仙園線、沼ノ平姿見の池線、中岳裾合平線、大雪山縦走線、銀泉台白雲岳線、高原温泉高根ヶ原線、勇駒別周回線、トムラウシ山線等)を実施	・対象路線における整備・維持管理を実施 ・路線に応じた持続的な協働型管理体制の検討 ・中岳裾合平線道路(歩道)改修工事	・ヒサゴ沼区間保全工事の実施	・ヒサゴ沼区間保全工事の実施 ・縦走線(五色岳～ヒサゴ分岐)の保全工事実施	・＜別紙＞登山道の管理状況を参照
●登山道管理者の明確化	○管理者不在の路線における管理者の明確化	・未執行路線(美瑛富士線、美瑛岳線、糠平ウベベサンケ線等)の課題状況の把握、関係者間での調整を実施	・各路線の課題解決を図るための事業執行に向けた調整継続			・＜別紙＞登山道の管理状況を参照
●登山道等情報の記録・共有	○登山道等情報のデータベース構築 ○登山道等情報の共有・活用	・優先度の高い路線について動画撮影を実施 ・データベースへの記録情報の蓄積 ・「登山道等荒唐写真撮影ワークショップ」の実施	・登山道等情報の記録の継続 ・保全対策へのデータ活用・共有			
●登山道補修技術の検証・向上	○補修結果の評価・検証 ○補修技術の向上	・「登山道補修技術検討会」の実施、課題路線における補修対応	・補修対象路線の実施結果の評価・検証の継続			
●登山道管理水準等の見直し	○「登山道管理水準」の見直し検討 ○「登山道整備技術指針」の見直し検討	・見直しに向けた歩道情報の収集、課題事例・技術情報の蓄積	・見直しに向けた歩道情報の収集、課題事例・技術情報の蓄積			
(3)つながっていく国立公園 ⇒来訪者に向けた情報発信、大雪山国立公園に関わるすべての人々に向けた価値の発信						
●取組成果等の情報発信	○各保全の取組、保全ルール等の情報発信	・「大雪山の保全ルール」の検討・策定 ・情報発信媒体の検討・作成(ポスター) ・情報発信する取組成果の蓄積	・「大雪山の保全ルール」の発信 ・取組成果の蓄積、評価 ・より効果的な情報発信方法の検討			
●新たな賛同者・支援の獲得	○様々な主体の新たな賛同者・支援の獲得	・「白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金」や東川町等による取組継続 ・各山岳関係イベントや「協力金フォーラム」等の開催	・各種イベント等を通じた新たな賛同者・支援を獲得するための機会を継続			・2024年は「大雪山国立公園指定90周年」
(4)みんなが協働して管理運営する国立公園 ⇒協働型管理体制の維持、管理運営への利用者の参加・周辺地域との連携、みんなが学び成長し将来世代へ引き継ぐ国立公園						
●人材育成	○補修技術者の人材育成	・「白雲岳協力金」を活用通じた人材育成 ・「登山道整備リーダー育成研修会」、「登山道維持管理勉強会」の実施	・各種研修会・補修イベント等の継続			
●保護と利用の仕組みづくり	○大雪山国立公園全体における保全の仕組みづくり	・各協力金やクラウドファンディングを活用した取組を実施	・「白雲岳協力金」等の展開に向けた具体的検討			
●一元的な管理運営体制の構築	○国立公園の一元的な管理運営体制の構築	・一元的な管理運営体制(大雪山財団(仮称))の必要性や目指す方向性について共有	財団設立に向けた必要事項やスケジュールについて折を見て検討			

＜資料5-2別紙＞大雪山国立公園における登山道の管理状況

資料5-2別紙
2024年 7 月現在

公園計画・大雪山グレード			事業執行の状況			再整備・維持管理等の状況			実施予定 ○：調査・計画・設計等 ●：整備（基盤的整備） ◎：維持管理（補修・点検・モニタリング）					備考（記録）
番号	路線名	グレード	事業執行者	執行区間・内容	課題状況（保全対策ランク等）	事業・取組名	実施主体	取組内容（R6年度）	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	
1	原始ヶ原線	G4	未執行			●下草刈、枝払い	富良野山岳会							
2	層雲峡ニセイカウシュッペ山線	(G3) ※朝陽山まで点線表示	未執行		・「ランクA」：登山口付近 ・管理者不在	●ササ刈り								
3	層雲峡勇駒別線	G4, G3, G2, G1	北海道	■層雲峡集団施設地区～勇駒別集団施設地区	・「ランクA」：北海沢～北海岳分岐間、裏旭～旭岳間 ・「ランクB」：黒岳石室分岐～北海沢間、黒岳石室分岐～北嶺分岐、勇駒別園地～姿見の池園地	●登山道補修イベント	発注：北海道 受注：（一社）大雪山・山守隊	・補修イベントを実施（黒岳石室～雲ノ平）	◎					「たまには山へ恩返し」
			(株)りんゆう観光	■黒岳7合目～見晴らし台	・「ランク非適用」 登山道管理水準改定に合わせて設定が必要	●登山道補修、点検	Asahidake Trail Keeper 旭岳ビジターセンター	・木道補修、点検（天女が原登山道） ・登山道補修（姿見の池園地）	◎					通称「黒岳遊歩道」
			環境省	■中岳分岐～間宮分岐	・「ランクC」：中岳分岐～間宮分岐間で風衝地群落保全のための侵食対策が必要	●上川・東川地区登山道点検等業務 ●登山道補修業務（予定）	●発注：環境省 受注：(同)北海道山岳整備 ●未定	・点検、維持管理、モニタリングを実施（中岳分岐～間宮分岐） ・侵食防止対策を実施（中岳分岐～間宮分岐）	◎	◎	◎	◎	◎	
				案内図標識（2基）										
4	層雲峡銀河流星ノ滝線	非適用	未執行											
5	紅葉谷線	G1	上川町	■紅葉谷入口～紅葉滝			上川町	・維持管理の実施 ・登山口周辺の冠水対策（集水樹土砂抜き）	◎	◎	◎	◎	◎	
6	雲井ヶ原線	非適用	未執行											
7	愛山溪北嶺岳線	G3, G2	北海道	■愛山溪温泉～北嶺分岐	・「ランクB」：北嶺岳～北嶺分岐 ・滝コース閉鎖		北海道	・滝コースについては現状確認を実施した上で閉鎖を継続予定						
			環境省	■三十三曲分岐～沼ノ平分岐		●上川地区登山道補修等業務 ●上川・東川地区登山道点検等業務	発注：環境省 受注：(同)北海道山岳整備	・点検、維持管理、モニタリング（三十三曲分岐～沼ノ平分岐）	◎	◎	◎	◎	◎	
				案内図標識										
8	松仙園線	(G4)※管理水準未反映	環境省	■松仙園登山口～八島分岐	・「ランク非適用」 登山道管理水準改定に合わせて設定が必要 ・泥濘及び侵食箇所の補修、植生モニタリングが必要	●松仙園登山道改修等業務	発注：環境省 受注：NPO法人かむい	・泥濘及び侵食箇所への飛木道等の施工（八島分岐付近） ・植生モニタリング	◎	◎	◎	◎	◎	
		非適用	未執行	■愛山溪温泉～松仙園登山口										安足間林道（北海道）
9	沼ノ平姿見の池線	G3, G2, G1	環境省 (※整理中)	■沼ノ平分岐～姿見の池園地分岐	・過年度整備の木道が老朽化	●上川地区登山道補修業務 ●上川・東川地区登山道点検等業務 ●補修箇所調査業務（予定）	●発注：環境省 受注：(同)北海道山岳整備 ●発注：環境省 受注：(同)北海道山岳整備 ●未定	・泥濘箇所に飛び木道設置（沼ノ平分岐～当麻乗越） ・スノーモービルによる資材荷揚げ（沼ノ平付近） ・点検、維持管理、モニタリング（三十三曲分岐～当麻乗越～姿見の池） ・補修箇所の調査及び補修方法の検討（裾合分岐～当麻乗越）	◎	◎	◎	◎	◎	
10	当麻岳線	G4	未執行		・「ランクB」：安足間岳上部 ・管理者不在									北海道が歩道敷地を借地
11	中岳裾合平線	G3	北海道	■裾合平分岐～中岳温泉	・「ランクA」裾合平分岐～裾合平間の木道が老朽化	●OFを活用した登山道補修	発注：北海道 受注：（一社）大雪山・山守隊	・登山道補修を実施（裾合平分岐～中岳温泉）	◎ ●					「たまには山へ恩返し」
		G4	環境省	■中岳温泉～中岳分岐	・「ランクC」：中岳温泉～中岳分岐間で風衝地群落保全のための侵食対策が必要	●中岳裾合平線歩道再整備	●発注：環境省 受注：(株)イトイ産業	・再整備工事を実施（中岳温泉～中岳分岐）	●	◎	◎	◎	◎	
						●上川・東川地区登山道点検等業務 ●登山道補修業務（予定）	●発注：環境省 受注：(同)北海道山岳整備 ●未定	・点検、維持管理、モニタリング（中岳温泉～中岳分岐） ・侵食防止対策を実施（中岳温泉～中岳分岐）	◎	◎	◎	◎	◎	
12	大雪山縦走線	G5, G4	北海道	■北海岳分岐～白雲岳避難小屋 ■高根ヶ原分岐～富良野岳山頂	・「ランクA」：北海岳分岐～白雲岳避難小屋分岐、ヒサゴ沼北分岐下部～ヒサゴ沼避難小屋分岐、ヒサゴ沼付近（雪渓下部）、トムラウシ山～南沼、富良野岳肩上部～富良野岳 ・「ランクB」：白雲岳避難小屋分岐～高根ヶ原分岐手前、平ヶ岳付近、忠別岳避難小屋分岐～忠別岳南避難小屋	●白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金による登山道補修	発注：上川地区登山道等維持管理連絡協議会 受注：(同)北海道山岳整備	・登山道補修（北海岳～白雲岳避難小屋） ・官民協働登山道補修事業の実施	◎	◎	◎	◎	◎	(株)コロンビアスポーツウェアジャパンとの連携
			北海道 ↓ 環境省	■白雲岳避難小屋～高根ヶ原分岐 ■高根ヶ原分岐～ヒサゴ沼		●大雪山縦走線歩道再整備工事	環境省	・R6年度において追加設計を実施予定 ・ヒサゴ沼周辺歩道の再整備工事はR5、R6年度入札不調によりR7年度に延期予定	○	● ◎	● ◎	● ◎	● ◎	環境省直轄化を予定している区間 R3年度に高根ヶ原分岐～五色岳間、R4年度にヒサゴ沼周辺歩道、R5年度に五色岳～ヒサゴ分岐（一部除く）の再整備設計済み
				案内図標識（4基）										
			未執行	■富良野岳山頂～原始ヶ原登山口										
13	銀泉台白雲岳線	G4, G3, G2	北海道	■銀泉台～白雲岳	・「ランクB」：第一花園上部～赤岳	●登山道補修	登山道維持管理委員会（登山道補修技術検討会）	・R3～R4年度の施工箇所に対する補修を実施（赤岳第四雪渓付近）。	◎	◎	◎	◎	◎	(旧)黒岳間宮岳線道路（歩道）
			環境省	案内図標識										
14	高原温泉小泉岳線	G4, G3	林野庁	■高原温泉～小泉岳分岐										
			環境省	案内図標識										
			未執行	■板垣新道分岐～白雲岳避難小屋分岐	・「ランクB」：板垣新道分岐～白雲岳避難小屋分岐 ・管理者不在									白雲岳避難小屋周辺登山道維持管理協力金による補修対象区間
15	高原温泉高根ヶ原線	(G5,)G3, G2 ※三笠新道は点線表示	北海道	■高原温泉～高根ヶ原分岐・空沼		●登山道補修	発注：北海道 受注：(同)北海道山岳整備	・泥濘箇所に飛び木道設置 ・ヒグマセンターにおける募金の活用、ボランティア活動	◎	◎	◎	◎	◎	三笠新道は、ヒグマとの軋轢防止のため、ヒグマの定着が確認され次第閉鎖

＜資料5-2別紙＞大雪山国立公園における登山道の管理状況

資料5-2別紙
2024年 7 月現在

17	ヤンベタツプ五色岳線	G4	北海道	■クチャンベツ沼ノ原登山口～沼ノ原分岐 ■沼ノ原大沼～五色岳	・「ランクA」：クチャンベツ沼ノ原登山口～沼ノ原分岐における中腹区間の侵食が進行 ・「ランクC」：沼ノ原大沼～五色岳間の木道が老朽化	●老朽化した沼ノ原大沼～五色岳間の木道の更新	北海道	・再整備を実施（沼ノ原大沼～五色岳の区間のうち700m）	● ◎	○ ◎	● ◎	● ◎	● ◎	自然環境整備交付金を活用し、R4年度から再整備事業に着手
			環境省	■沼ノ原分岐～沼ノ原大沼		●上川・東川地区登山道点検等業務	発注：環境省 受注：(同)北海道山岳整備	・点検、維持管理、モニタリング（沼ノ原分岐～沼ノ原大沼）	◎	◎	◎	◎	◎	
		非適用	未執行	■ヤンベタツプ川合流点～クチャンベツ沼ノ原登山口										層雲峡本流林道（林野庁）
18	勇駒別周回線	G1	東川町	■勇駒別集団施設地区（南側）			東川町	・維持管理	◎	◎	◎	◎	◎	
		G1	未執行	■勇駒別集団施設地区（北側）										
19	天人峡勇駒別線	(G3) ※点線表示	未執行	■天人峡温泉～勇駒別集団施設地区	・「ランクA」：天人峡旭岳温泉方面登山口付近 ・管理者不在									通行止め（一般利用なし）
		環境省		案内図標識										
20	羽衣敷島の滝線	G1	北海道											通行止め？
		非適用	未執行											
21	天人峡化雲岳線	G5, G4, G2	林野庁	■天人峡温泉～化雲岳・歩道合流点	・「ランクA」：小化雲岳直下（ボン沼南）付近 ・「ランクB」：第二公園付近	●下草刈り	林野庁上川中部森林管理署		◎					
		環境省		案内図標識										
22	美瑛富士線	G3	未執行		・「ランクA」：標高1350m付近～美瑛富士避難小屋分岐・オブタテシケ方面分岐 ・管理者不在	●枝払い、ササ刈り	美瑛山岳会							
23	白金温泉十勝岳線	G3, G2	北海道	■白銀温泉～十勝岳		①維持管理 ②登山道整備（PV行事）	①上川総合振興局 ②環境省（PV）	①望岳台付近ロープ張り ②登山道沿いのロープ張り、ロープおろし	◎	◎	◎	◎	◎	
		環境省		案内図標識										
24	望岳台十勝岳温泉線	G2	未執行											
25	美瑛岳線	G3	未執行		・「ランクB」：美瑛岳分岐～美瑛岳・北向沢のハシゴの維持管理 ・管理者不在	●ボランティアで随時パトロール	美瑛山岳会	・ハシゴ、登下降用ロープの安全確認（予定）						
26	三段山線	G3	上富良野町	■吹上温泉～三段山～十勝岳温泉		●登山道整備	上富良野町	・老朽化した標識の再整備（三段山分岐標識） ・山頂付近のロープ張り ・ササ刈り、倒木処理	◎	◎	◎	◎	◎	
27	富良野岳上ホロカメツク山線	G3	北海道	■十勝岳温泉～富良野岳・上ホロカメツク山	・富良野岳肩上部における侵食、階段ハードル化	●登山道整備（PV行事） ●登山道整備	環境省（PV） 上川総合振興局	・PV活動による登山道沿いのロープ張り・下ろし ・富良野岳肩上部における浸食等の現場検証及び老朽化した標識盤再整備予定、（上川総合振興局）	◎	◎	◎	◎	◎	
		環境省		案内図標識										
28	十勝三股ニベソツ山線	G4	未執行		・「ランクB」：前天狗岳下部における侵食	●登山道整備事業	ひがし大雪自然館運営協議会	・ササ刈り、倒木処理、ロープ張りを実施	◎					
		非適用	未執行											
29	石狩連峰縦走線	G5, G4, G3	未執行			●登山道整備事業	ひがし大雪自然館運営協議会	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去を実施	◎					
		非適用	未執行	■十勝三股～シュナイダー登山口										音更川本流林道
30	糠平ウベベサンケ山線	G3	未執行	■糠平コース登山口～ウベベサンケ山		●登山道整備事業	ひがし大雪自然館運営協議会	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去を実施	◎					
		非適用	未執行	■糠平温泉～糠平コース登山口										
31	糠平天宝山線	G2	未執行		・旧鉄道トンネル迂回箇所の危険箇所	●登山道整備事業	ひがし大雪自然館運営協議会	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去を実施						
32	然別峡ウベベサンケ山線	非適用	未執行	■菅野温泉東コース登山口～ウベベサンケ山										（実質通行止め？）
			未執行	■然別峡～菅野温泉東コース登山口										ユウヤンベツ林道（今も通行止め？）
33	南ベウトトル山線	G2	未執行			●登山道整備事業	然別自然休養林保護管理協議会	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去を実施						
34	天望山周回線		林野庁	■白雲橋～然別湖南岸		●登山道整備事業	然別自然休養林保護管理協議会	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去を実施	◎					
			環境省	案内図標識										
			未執行											
35	駒止湖東ヌブカウシヌブリ線	G2, G1	未執行			●登山道整備事業	然別自然休養林保護管理協議会	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去を実施						
36	西ヌブカウシヌブリ	G2	未執行			●登山道整備事業	然別自然休養林保護管理協議会	・ササ刈り、倒木処理、かん木除去を実施						
37	トムラウシ山線	G5, G4	環境省	■トムラウシ温泉～トムラウシ分岐	・「ランクA」：トムラウシ分岐付近 ・「ランクB」：トムラウシ公園～トムラウシ分岐付近	●登山道整備事業	点検：新得山友会 補修発注：環境省 補修受注：(同)北海道山岳整備	・点検：維持管理作業 ・補修：簡易木道施工	◎	◎	◎	◎	◎	「たまには山へ恩返し」
		G4	未執行	■短縮コース登山口～温泉コース分岐										
39	曙橋十勝岳線	G4	未執行											
41	北海道自然歩道線	G1	北海道			●歩道整備事業	北海道	・老朽化して危険な階段・木道の更新						自然環境整備交付金使用
		非適用	未執行											